

1. 「サイバーセキュリティ意識・行動強化プログラム」の策定経緯

- 「サイバーセキュリティ戦略」(2018年7月閣議決定)に基づき、産学官民の関係者が円滑かつ効果的に活動し、有機的に連携できるよう、サイバーセキュリティの普及啓発に向けた総合的な戦略及びアクションプランとして策定(2019年1月)。
- 同プログラムについては、個別の施策の実施状況のフォローに加え、本プログラム自体の内容・効果についても定期的に評価を行うことにより、PDCAサイクルを回していくこととしている。

(参考)同プログラムにおけるPDCAに関する記述(P.25)

(5)PDCAサイクルによる継続的な改善

「ポータルサイトに掲載した官民の取組について、その個別の実施状況をフォローすることに加え、サイバー空間における技術・サービスの進展を踏まえた個人・企業における被害や具体的対策の実施状況等を分析し、今後注力すべき対象や取組を精査、明確化するなど、本プログラム自体の内容・効果についても定期的に評価を行うことにより、PDCAサイクルを回していく。」

2. PDCAサイクルによる継続的な評価・改善に向けたデータの整理（昨年実施と同様）

- サイバーセキュリティの普及啓発に係る状況を特徴づける事項について、次頁の通り、継続的に収集しうる代表的な客観的なデータを前広に収集し、整理。
- これらの事項やデータには、施策や官民の取組に限らず、様々な要因の影響を受けるものがあるため、本資料のデータは関係府省庁が講ずる個々の施策の評価にそのまま活用することを目的としたものではない。
- 一方で、これらのデータの推移を継続的に参照することにより、本プログラム全体の効果を評価し、各施策における重点的な取組内容を調整するなどの対応に繋げていくことが考えられる。

（参考1）普及啓発の目標（アウトカム）及び現状に関する記述

サイバーセキュリティ戦略（2018年7月）

4. 4 横断的施策

4. 3. 3 全員参加による協働

「サイバー空間で活動する主体としての国民一人一人がサイバーセキュリティに対する意識・理解を醸成し、サイバー空間における様々なリスクに対して対処できることが不可欠」

サイバーセキュリティ意識・行動強化プログラム（2019年1月）

2. 現状 ①個人の状況

「サイバー空間におけるサービスの利用が拡大し、国民の「生活」へ浸透するのに伴い、国民のサイバー空間に対する不安感も拡大を続けている。」

「不安感の拡大が、必ずしも個人レベルでの具体的な対策の実施に十分に結びついていない状況が伺える。」

（参考2）政策評価、独立行政法人評価といった評価体系において用いられている指標の例

政策評価での例

施策目標 — 測定指標、参考指標

独法評価での例

中長期目標、評価軸 — 評価指標、モニタリング指標

行政事業レビューでの例

成果目標 — 活動指標・活動実績（アウトプット）、成果指標・成果実績（アウトカム）

継続的に収集しうる代表的なデータ

個人に関する取組

対策状況

: 個人における具体的対策の実施状況に関するデータ

※青字は昨年時からの追記・修正内容

- | | |
|---|------------------------|
| ① 情報セキュリティに関する攻撃・脅威等の認知度・理解度 | 2019年度追記、2020年度関連データあり |
| ② 情報セキュリティに関する日常の行動 | 2019年度追記、2020年度関連データあり |
| ③ 情報セキュリティ対策の実施状況 | 2019年度追記、2020年度関連データあり |
| ④ 金融機関のインターネットバンキングの利用について | 2019年度以降データなし |
| ⑤ スマートデバイスのセキュリティ対策の実施状況 | 2019年度追記、2020年度関連データあり |
| ⑥ インターネットや情報に関する倫理教育の受講経験 | 2019年度追記、2020年度関連データあり |
| ⑦ 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査結果(ILAS) | 2019年度追記、(2020年度は今後予定) |

被害

: 被害に関するデータ

- | | |
|--------------------------|---------------|
| ⑧ サイバー犯罪の検挙件数 | 2019年、2020年追記 |
| ⑨ インターネットバンキングにおける不正送金被害 | 2019年、2020年追記 |

不安感

: 国民のサイバー空間に対する不安感

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| ⑩ 治安に関する世論調査 | データ更新なし |
| ⑪ インターネット利用に関連するトラブルへの不安感 | データ更新なし／別データを用いて別途作成 |
| ⑫ インターネット利用に関連するトラブルへの不安感(地域別) | データ更新なし |

- 参考1 インターネットの利用状況
参考2 モバイル端末の保有状況
参考3 テレワーク実施状況

※次頁以降、データに付した

赤色の文字・印は昨年時事務局で加えた考察。

橙色の文字・印は今回事務局で加えた考察。

※データの出所

- ・情報セキュリティの脅威に対する意識調査(情報処理推進機構(IPA))【毎年調査】
- ・情報セキュリティの倫理に対する意識調査(情報処理推進機構(IPA))【毎年調査】
- ・青少年のインターネット・リテラシー指標等に係る調査結果(ILAS)(総務省)【毎年調査】
- ・治安に関する世論調査(内閣府)【近年では2004年、2006年、2012年、2017年】
- ・インターネットの安全・安心に関する世論調査(内閣府)【近年では2007年、2015年、2018年】
- ・通信利用動向調査(総務省)【毎年調査】

① 情報セキュリティに関する攻撃・脅威等の認知度・理解度(1／3) 2019年度追記

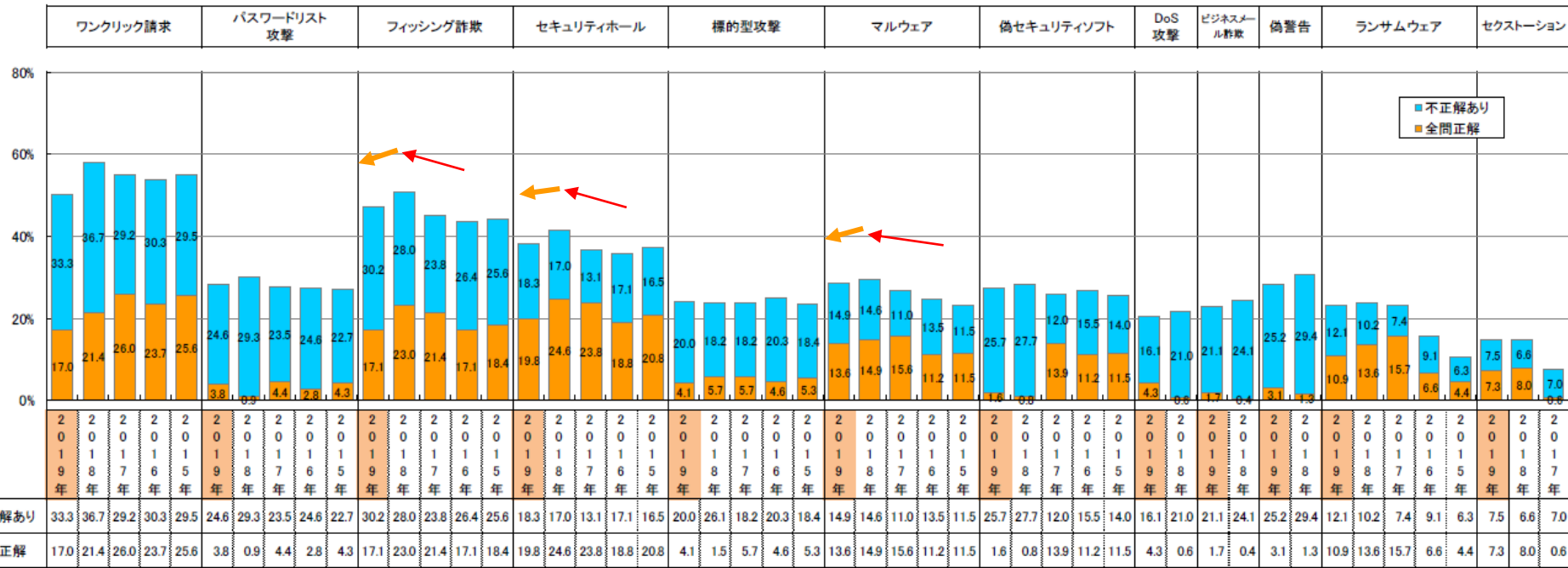
- 情報セキュリティに関する攻撃・脅威等の理解度について、全問正解の割合をみると、「セキュリティホール(脆弱性)」(19.8%)が最も高い。次いで「フィッシング詐欺」(17.1%)、「ワンクリック請求」(17.0%)、「マルウェア」(13.6%)、「ランサムウェア」(10.9%)と続く。
- 2018年と比較すると「フィッシング詐欺」の全問正解の割合が低下している。

Q6 次に挙げる攻撃や脅威などの概要や特徴に関する説明の内容が正しいか、間違っているかを選択してください。(お答えはそれぞれ1つ)

※インターネット上での各攻撃・脅威を問う設問において、全3問正解の場合を「全問正解」、正解が2問以下の場合を「不正解あり」と定義している。

※n数を調査対象者全体として算出。2019年:n=5000、2018年:n=5000、2017年:n=5000、2016年:n=5000、2015年:n=5000

※Q6はQ5で「詳しい内容を知っている」または「概要をある程度知っている」と回答した人に対して実施。そのため棒グラフの高さはQ5で「詳しい内容を知っている」または「概要をある程度知っている」と回答した人の割合に相当



出所: 2019年度 情報セキュリティの脅威に対する意識調査 - 調査報告書 - (情報処理推進機構)

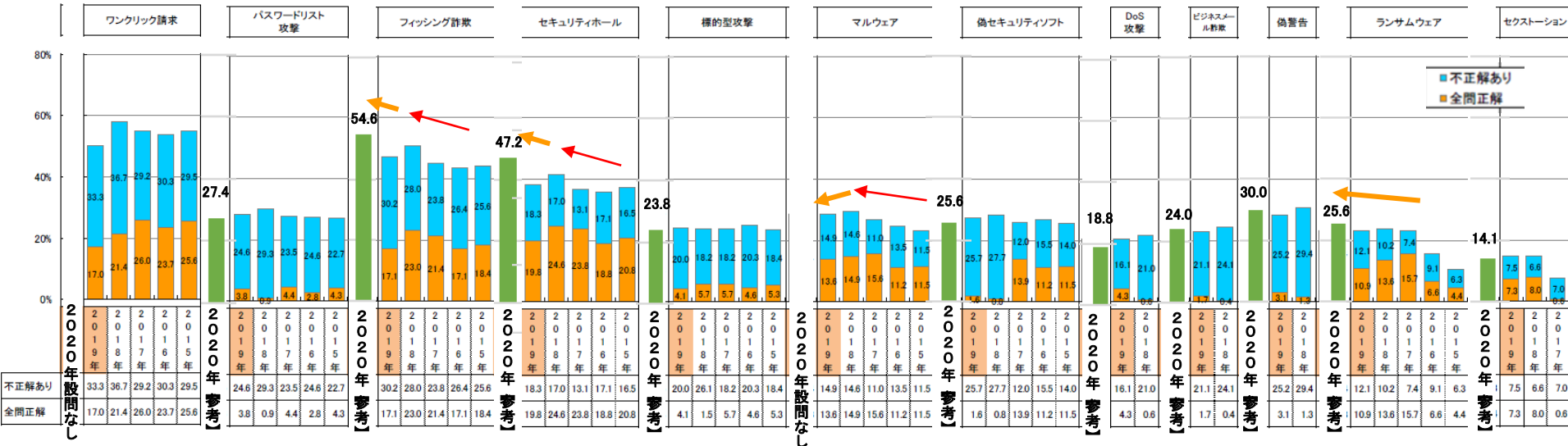
① 情報セキュリティに関する攻撃・脅威等の認知度・理解度(2/3) 2019年度追記

2020年度関連データ付記(参考)

Q6 次に挙げる攻撃や脅威などの概要や特徴に関する説明の内容が正しいか、間違っているかを選択してください。(お答えはそれぞれ1つ)

※インターネット上での各攻撃・脅威を問う設問において、全3問正解の場合を「全問正解」、正解が2問以下の場合を「不正解あり」と定義している。
 ※n数を調査対象者全体として算出。2019年:n=5000、2018年:n=5000、2017年:n=5000、2016年:n=5000、2015年:n=5000
 ※Q6はQ5で「詳しい内容を知っている」または「概要をある程度知っている」と回答した人に対して実施。そのため棒グラフの高さはQ5で「詳しい内容を知っている」または「概要をある程度知っている」と回答した人の割合に相当

2020年度まで含めると向上が見受けられる

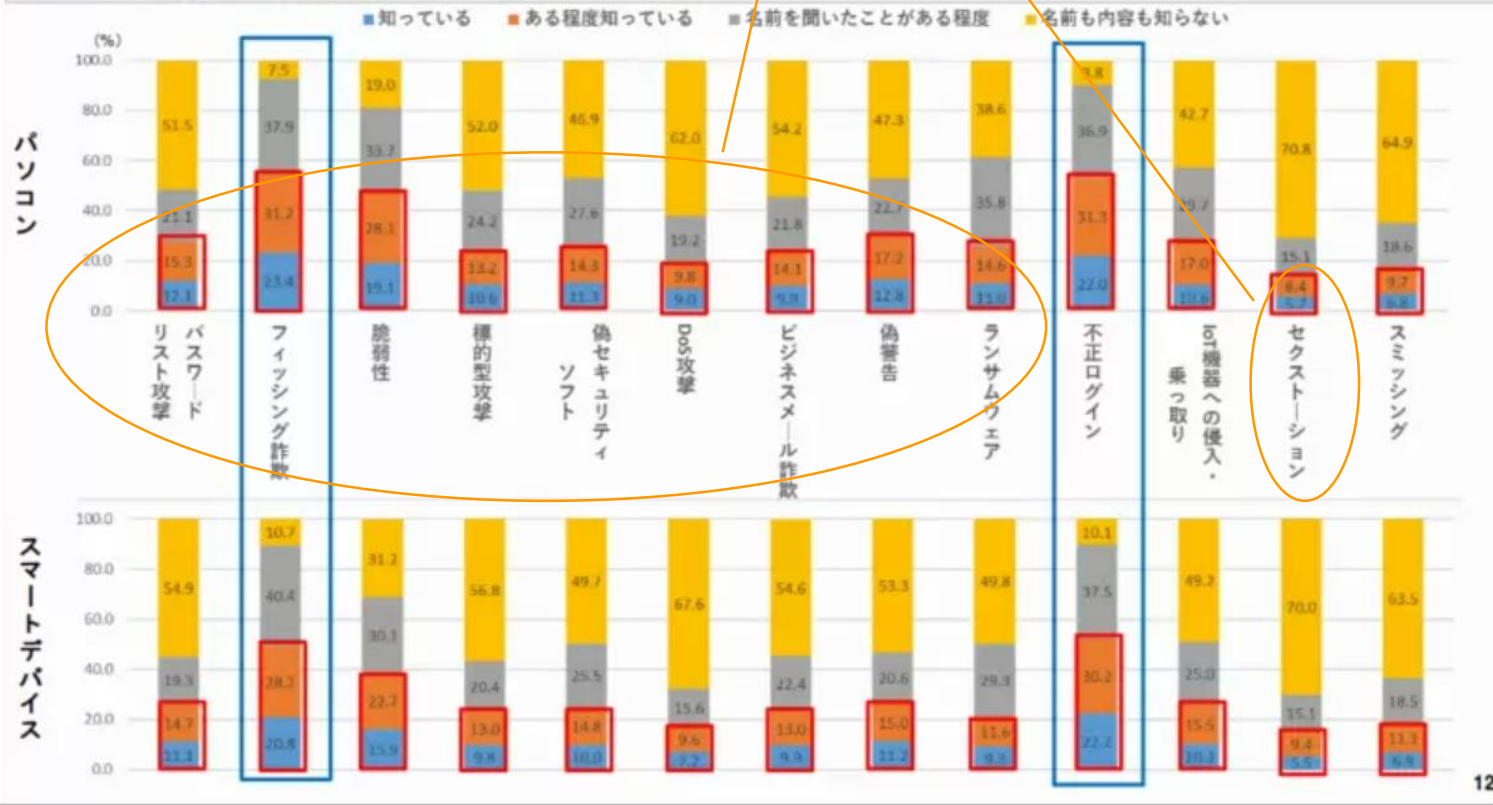


① 情報セキュリティに関する攻撃・脅威等の認知度・理解度(3/3) 2020年度関連データ

※設問が多少変わっており2019年度以前との単純な比較には留意が必要。

これらデータを前ページに付記
付記したデータは「知っている」と「ある程度知っている」の合計

- 全体的にパソコンよりスマートデバイス利用者の認知度(赤枠)が低い(セクストーション、スミッシングを除く)。
- 脅威別ではフィッシング詐欺、不正ログイン(青枠)が高い(ニュースなどで目にする機会が多いと考えられる)。
- 性別比較では、女性は男性より10%以上認知度が低い
(「性年代軸_脅威調査PC.pdf」、「性年代軸_脅威調査SD.pdf」を参照)

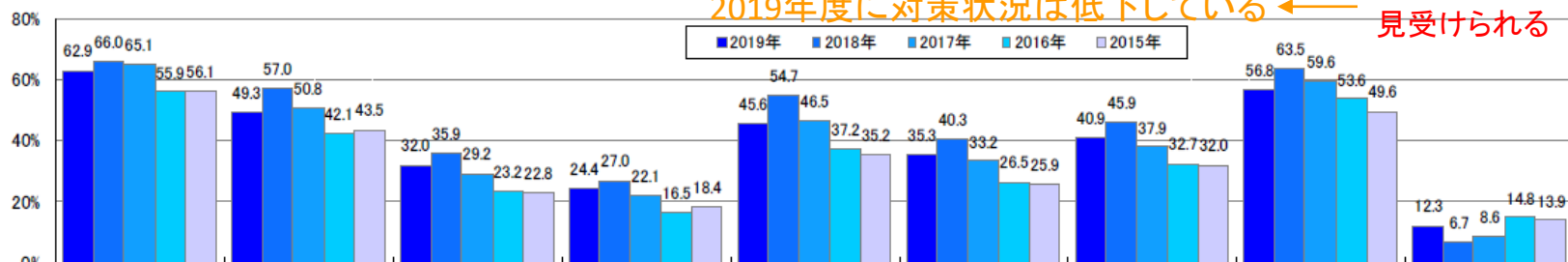


12

- 情報セキュリティに関する日常の行動について最も高いのは、「パソコンには、ログインパスワードを設定している」(62.9%)である。次いで「知らない人からの電子メールの添付ファイルは、開かずに削除する」(56.8%)、「ウイルス対策ソフトのパターンファイルは常に最新の状態にしている」(49.3%)、「ウェブ閲覧中に、意図しないアプリケーションのインストールファイルがダウンロードされる場合は、キャンセルする」(45.6%)と続く。
- 年代別でみると、70代以上は「知らない人からの電子メールの添付ファイルは、開かずに削除する」が最も高い。
- パソコン習熟度でみると、レベル4は「氏名や住所、クレジットカード番号などを入力する時は、アドレスバーのURLを必ずチェックし、安全な設定になっているかを確認する」の割合が全体よりも高い。
- 2018年と比較すると、「ウイルス対策ソフトのパターンファイルは常に最新の状態にしている」「ウェブ閲覧中に、意図しないアプリケーションのインストールファイルがダウンロードされる場合は、キャンセルする」「OSのアップデートと共に、インストールしているソフトウェアも最新のバージョンに更新している」「知らない人からの電子メールの添付ファイルは、開かずに削除する」の割合が低下している。

Q22 あなたは以下の行動をとっていますか。あてはまるものをすべて選択してください。(お答えはいくつでも)

2019年度に対策状況は低下している ← 向上が見受けられる



		n=	全体+10Pt以上	全体+5Pt以上	全体-5Pt以下	全体-10Pt以下 (属性n=30以上)	パソコンには、ログインパスワードを設定している	ウイルス対策ソフトのパターンファイルは常に最新の状態にしている	氏名や住所、クレジットカード番号などを入力する時は、アドレスバーのURLを必ずチェックし、安全な設定になっているかを確認する	ブラウザのセキュリティ設定は常に高くし、表示されない場合だけ指示に従って設定している	ウェブ閲覧中に、意図しないアプリケーションのインストールファイルがダウンロードされる場合は、キャンセルする	OSのアップデートと共に、インストールしているソフトウェアも最新のバージョンに更新している	個人のホームページや怪しいサイトにあるソフトウェアは、ウイルスに感染する可能性が高いので使わない	知らない人からの電子メールの添付ファイルは、開かずに削除する	上記にあてはまるものはない
性別	全体	5000					62.9	49.3	32.0	24.4	45.6	35.3	40.9	56.8	12.3
	男性	2864					62.0	54.9	34.2	26.1	47.5	40.5	41.3	54.7	12.3
	女性	2136					64.0	41.9	28.9	22.1	42.9	28.3	40.4	59.5	12.2
年代別	10代	300					59.0	36.3	24.7	19.0	35.3	26.3	29.7	39.7	11.7
	20代	724					57.7	41.2	29.8	22.2	35.2	28.7	30.5	42.1	18.9
	30代	834					57.4	45.3	30.7	22.1	38.1	31.5	32.0	47.4	17.0
	40代	1084					60.8	51.0	33.6	26.9	47.7	36.3	39.9	57.4	12.5
	50代	905					67.7	53.7	33.4	27.6	49.2	38.7	44.6	61.5	9.4
	60代	698					68.1	55.0	34.0	26.1	52.1	41.3	51.0	69.1	7.2
	70代以上	455					70.8	56.9	32.7	20.4	60.0	40.2	60.9	78.7	6.2
パソコン習熟度	レベル4	560					63.9	59.6	50.2	35.2	48.8	48.0	41.3	50.4	11.6
	レベル3	1992					65.7	58.2	37.7	30.9	54.7	44.9	44.7	59.9	8.4
	レベル2	1586					63.7	46.2	27.6	20.5	44.6	31.2	43.3	58.4	11.9
	レベル1	862					54.1	28.1	15.0	9.5	24.1	12.3	27.7	50.5	22.4
時系列別	2018年	5000					66.0	57.0	35.9	27.0	54.7	40.3	45.9	63.5	6.7
	2017年	5000					65.1	50.8	29.2	22.1	46.5	33.2	37.9	59.6	8.6
	2016年	5000					55.9	42.1	23.2	16.5	37.2	26.5	32.7	53.6	14.8
	2015年	5000					56.1	43.5	22.8	18.4	35.2	25.9	32.0	49.6	13.9

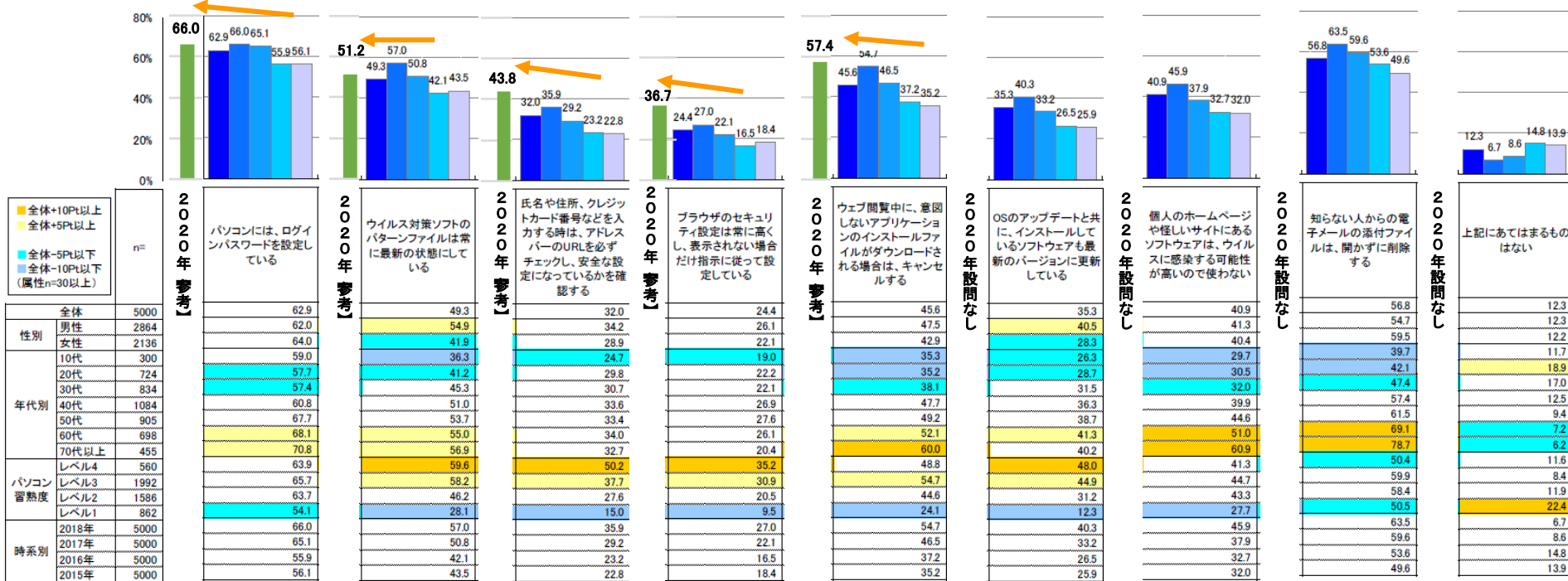
② 情報セキュリティに関する日常の行動(2/3)

2019年度追記

2020年度関連データ付記(参考)

2020年度まで含めると同様の傾向

向上が見受けられる



② 情報セキュリティに関する日常の行動(3/3) 2020年度関連データ

対策状況

※設問が多少変わっており2019年度以前との単純な比較には留意が必要。

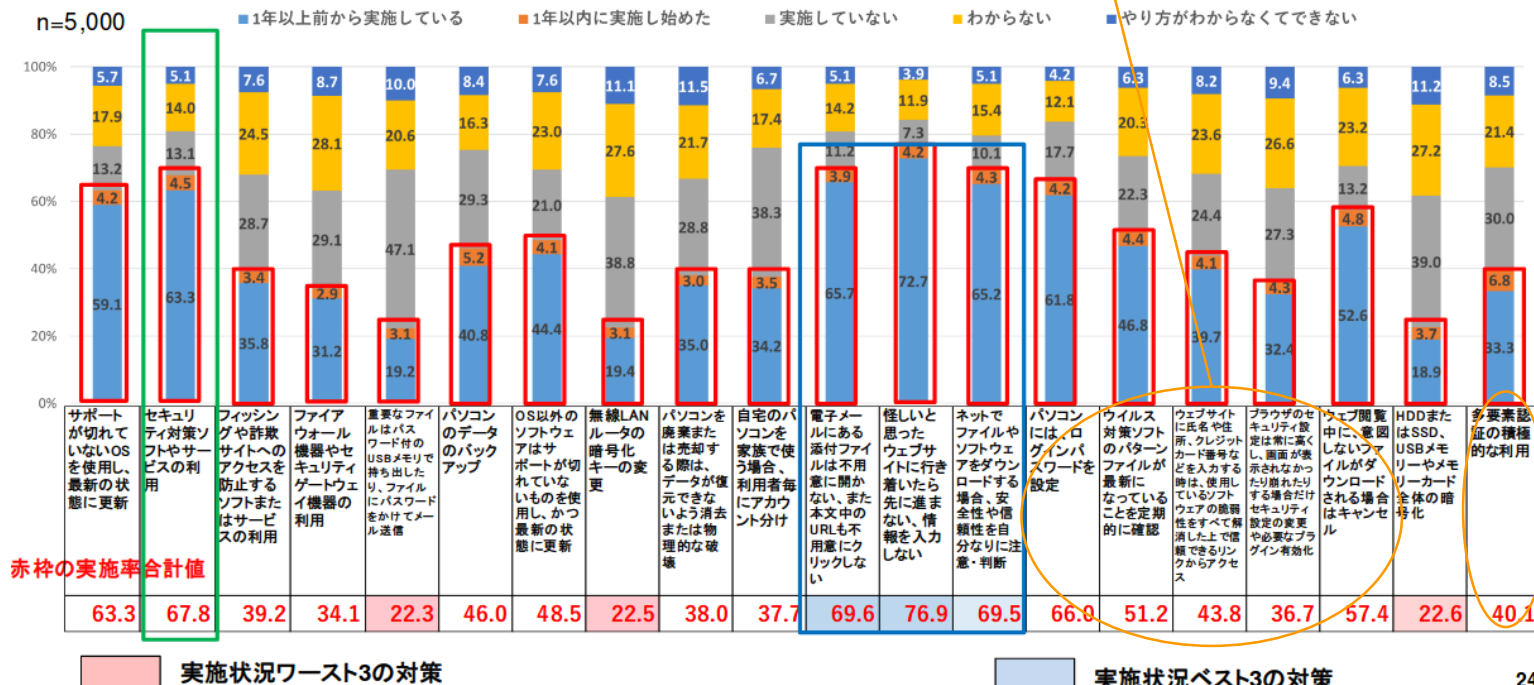
これらデータを前ページに付記

付記したデータは「1年以上前から実施している」と「1年以内に実施し始めた」の合計

■ 上位3位まではウェブやメール利用時の注意(青枠)、4位がセキュリティソフト・サービス利用(緑枠)。

■ 性別・年代別では、技術的な対策は若年層・男性ほど実施率が高く、「気を付ける、注意する」といった対策は年代が上がるほど実施率が高い。

(詳細は「性年代軸_脅威調査PC」を参照)



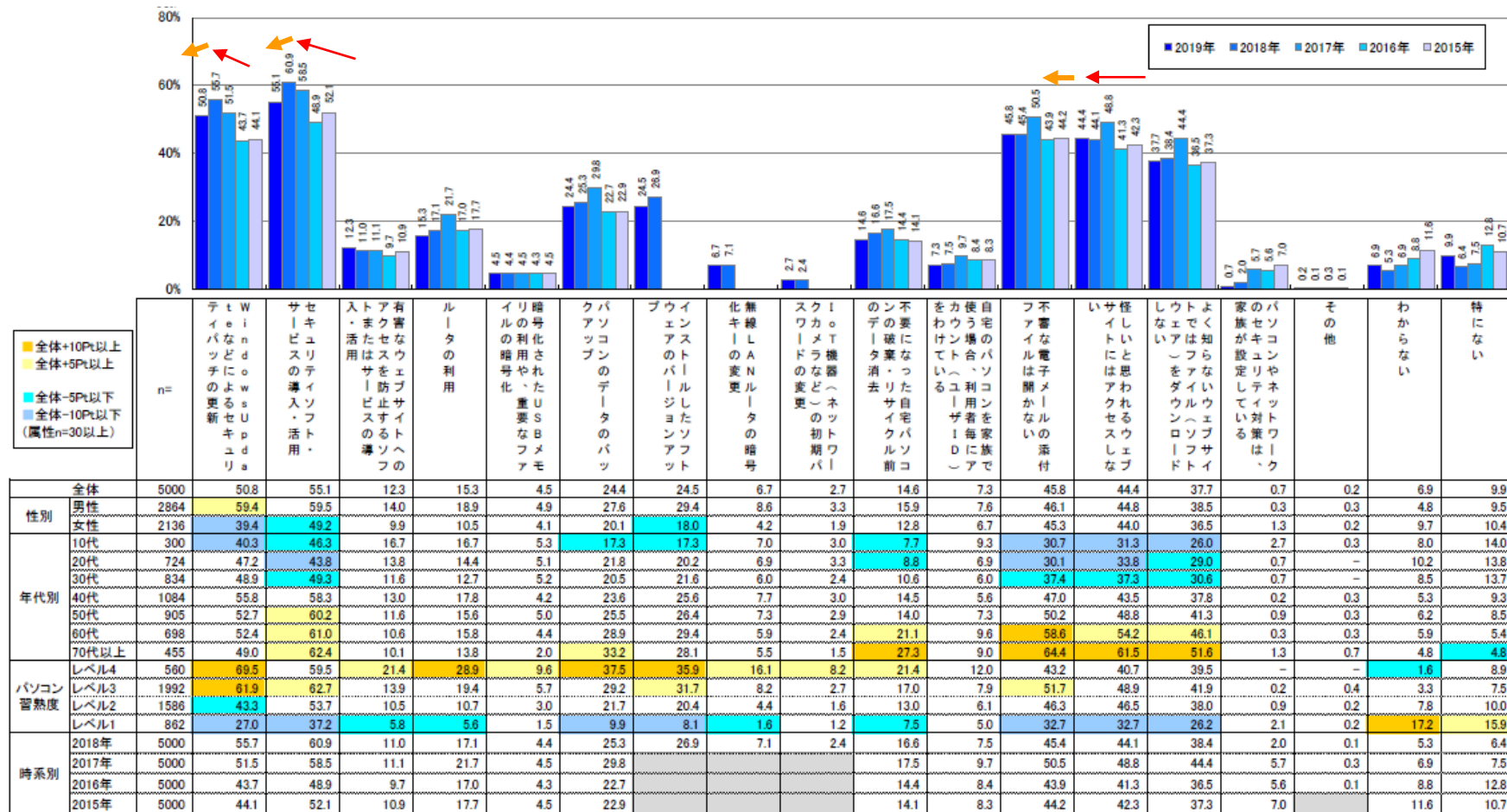
設問が追加されている

③ 情報セキュリティ対策の実施状況(1/3) 2019年度追記

対策状況

- 情報セキュリティ対策について最も高いのは、「セキュリティソフト・サービスの導入・活用」(55.1%)である。次いで「WindowsUpdateなどによるセキュリティパッチの更新」(50.8%)、「不審な電子メールの添付ファイルは開かない」(45.8%)、「怪しいと思われるウェブサイトにはアクセスしない」(44.4%)と続く。
- 年代別でみると、70代以上は「怪しいと思われるウェブサイトにはアクセスしない」「不審な電子メールの添付ファイルは開かない」の割合が全体よりも高い。
- パソコン習熟度でみると、レベル4は「WindowsUpdateなどによるセキュリティパッチの更新」が最も高い。
- 2018年と比較すると、「セキュリティソフト・サービスの導入・活用」の割合が低下している。

Q18 あなた自身が所有するパソコンや自宅のネットワークについて、現在実施しているセキュリティ対策をすべて選択してください。(お答えはいくつでも)



※「WindowsUpdateなどによるセキュリティパッチの更新」—2017年以前は「WindowsUpdate等によるセキュリティパッチの更新」

※「インストールしたソフトウェアのバージョンアップ」「無線LANルータの暗号化キーの変更」「IoT機器(ネットワークカメラなど)の初期パスワードの変更」は今年度から追加した設問

出所: 2019年度 情報セキュリティの脅威に対する意識調査-調査報告書-(情報処理推進機構)
設問は、複数のセキュリティ対策の中から実施しているものを複数選択する形式。

③ 情報セキュリティ対策の実施状況(3/3) 2020年度関連データ

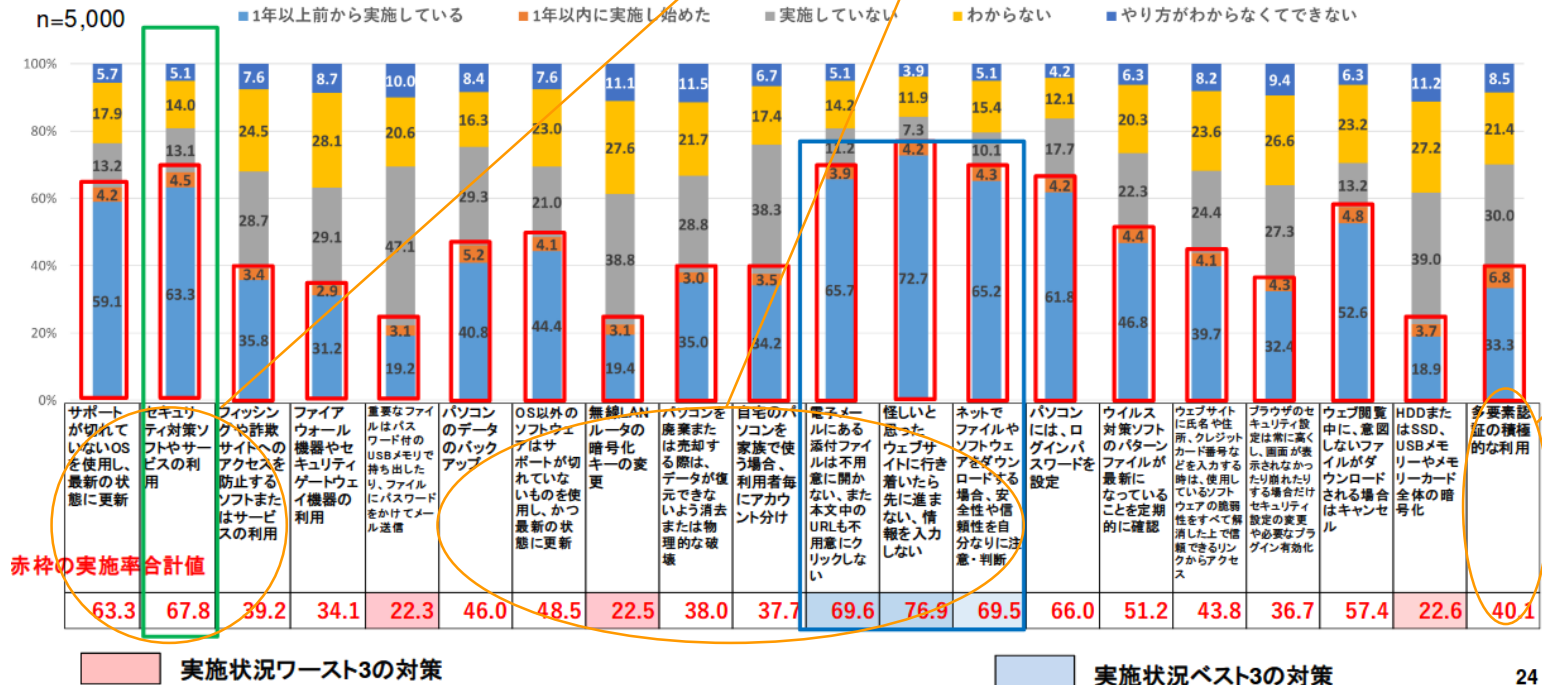
対策状況

※設問が多少変わっており2019年度以前との単純な比較には留意が必要。

これらデータを前ページに付記

付記したデータは「1年以上前から実施している」と「1年以内に実施し始めた」の合計

- 上位3位まではウェブやメール利用時の注意(青枠)、4位がセキュリティソフト・サービス利用(緑枠)。
- 性別・年代別では、技術的な対策は若年層・男性ほど実施率が高く、「気を付ける、注意する」といった対策は年代が上がるほど実施率が高い。
(詳細は「性年代軸_脅威調査PC」を参照)



設問が追加されている

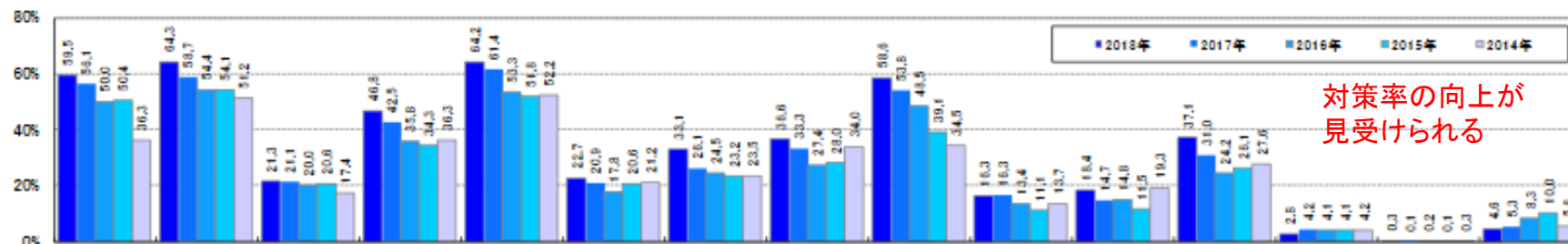
出所: 2020年度 情報セキュリティの脅威に対する意識調査-概要報告書-(情報処理推進機構)

※ 2020年度の設問は、セキュリティ対策1つ1つについて、実施の有無、有の場合いつからかを選択する形式。

2020年度の集計については、それぞれの対策について「1年以上前から実施している」と「1年以内に実施し始めた」の合計の数値を計算した。

対策状況

n=インターネット/バンキング利用者(Q3)



対策率の向上が見受けられる

		全体	利用するブラウザを常に最新の状態でしている	ウイルス対策ソフトは常に最新の状態でしている	金融機関が提供しているセキュリティソフトを利用している	金融機関からのパスワードなどの問い合わせに応じている	預金残高を定期的に確認する	乱数表・合言葉などの入力力を求められても、すべてを入力しない	URLやメールアドレスを確認する	他のサービスのアカウントとは異なるパスワードにしている	ワンタイムパスワードを利用している	ブラウザでURLが表示されるアドレスバーもしくは一部が緑色になっていることを確認する	メールアドレスを登録している	メールでのワンタイムパスワード通知サービスは、携帯電話のメールアドレスを登録している	利用するサイトは、あらかじめブックマークに登録しアクセスしている	パソコンやネットワークのセキュリティ対策は家族が設定している	その他のセキュリティ対策をしている	セキュリティ対策は何も行っていない
		全体	1792	59.5	64.3	21.3	46.8	64.2	22.7	33.1	36.6	58.6	16.3	18.4	37.1	2.8	0.3	4.6
性別	男性	1168	66.9	70.5	22.8	49.4	65.9	25.3	35.3	36.8	61.5	17.6	19.4	40.8	1.5	0.3	3.9	
	女性	624	45.7	52.9	18.6	41.8	60.9	17.6	29.0	36.2	53.4	13.9	16.5	30.1	5.3	0.5	5.9	
年代別	10代	65	49.2	60.0	16.9	38.5	61.5	27.7	30.8	27.7	67.7	15.4	21.5	38.5	4.6	-	4.6	
	20代	133	59.4	61.7	15.0	36.8	57.9	27.8	36.8	39.8	47.4	24.8	18.8	27.1	1.5	-	8.3	
	30代	272	57.7	60.3	13.2	39.0	61.4	22.8	35.3	36.0	54.4	18.4	16.9	36.0	3.3	-	6.3	
	40代	438	61.2	63.2	17.1	47.3	59.6	20.1	34.7	35.4	58.0	16.7	16.2	35.2	1.6	-	5.3	
	50代	400	62.5	65.8	23.0	48.3	65.5	23.3	32.8	35.8	58.3	17.8	18.5	40.8	3.0	0.5	2.5	
	60代	328	60.1	68.6	29.6	51.2	70.1	21.3	27.7	41.2	62.8	12.8	22.9	39.9	4.6	0.3	3.7	
	70代以上	156	53.2	66.0	32.7	57.7	72.4	24.4	34.6	34.6	66.0	8.3	16.0	37.2	1.3	1.9	3.8	
パソコン 習熟度	レベル4	234	77.4	78.2	20.9	54.7	69.2	30.8	49.1	44.4	65.4	30.8	21.8	44.9	0.9	-	3.8	
	レベル3	807	67.0	69.3	19.7	49.6	65.4	24.7	35.9	38.4	60.8	17.5	20.1	42.0	1.9	0.2	3.7	
	レベル2	564	50.4	58.7	23.9	43.6	62.1	19.0	26.4	33.9	53.2	10.8	15.1	30.1	3.0	0.7	4.4	
	レベル1	187	32.1	42.8	20.9	34.2	58.8	15.0	20.9	27.3	57.2	9.6	17.1	27.3	8.6	-	9.6	
時系列	2017年	2093	56.1	58.7	21.1	42.5	61.4	20.9	26.1	33.3	53.8	16.3	14.7	31.0	4.2	0.1	5.3	
	2016年	2012	50.0	54.4	20.0	35.8	53.3	17.8	24.5	27.4	48.5	13.4	14.8	24.2	4.1	0.2	8.3	
	2015年	1628	50.4	54.1	20.8	34.3	51.8	20.6	23.2	28.0	39.1	11.1	11.5	26.1	4.1	0.1	10.0	
	2014年	1599	36.3	51.2	17.4	36.3	52.2	21.2	23.5	34.0	34.5	13.7	19.3	27.6	4.2	0.3	5.5	

※「金融機関が提供しているセキュリティソフトを利用している」→2017年度以前は「金融機関が提供しているセキュリティ対策ソフトを利用している」

※「金融機関からのパスワードなどの問い合わせに応じない」→2017年度以前は「金融機関からのパスワード等の問い合わせに応じない」

※「その他のセキュリティ対策をしている」→2017年度以前は「その他」

対策状況

- Q19 あなた自身が所有するスマートデバイスについて、現在実施しているセキュリティ対策をすべて選択してください。(お答えはいくつでも)

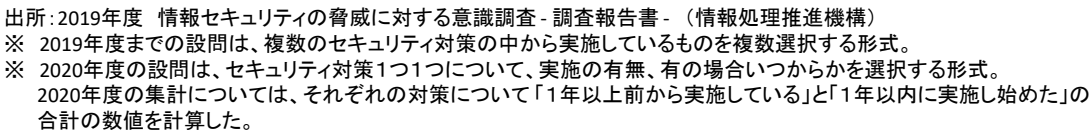
2019年度12月対象状況は概ね改善傾向

対策項目	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
就業機会の提供	46.5	54.4	56.1	43.2	40.7
就業機会の提供	41.6	49.0	58.1	41.5	40.6
就業機会の提供	19.1	20.7	19.1	19.3	16.3
就業機会の提供	35.4	43.5	50.7	29.5	36.5
就業機会の提供	12.0	14.0	15.5	9.9	11.2
就業機会の提供	9.0	11.4	11.8	6.0	8.0
就業機会の提供	8.5	10.4	11.0	6.3	9.2
就業機会の提供	24.7	27.0	33.4	16.5	21.8
就業機会の提供	17.0	22.2	17.0	7.3	5.3
就業機会の提供	13.1	15.9	21.2	10.9	12.0
就業機会の提供	0.3	0.6	0.5	0.3	0.5
就業機会の提供	26.4	18.7	16.9	27.0	26.6

出所:2019年度 情報セキュリティの脅威に対する意識調査-調査報告書-(情報処理推進機構)
設問は、複数のセキュリティ対策の中から実施しているものを複数選択する形式。

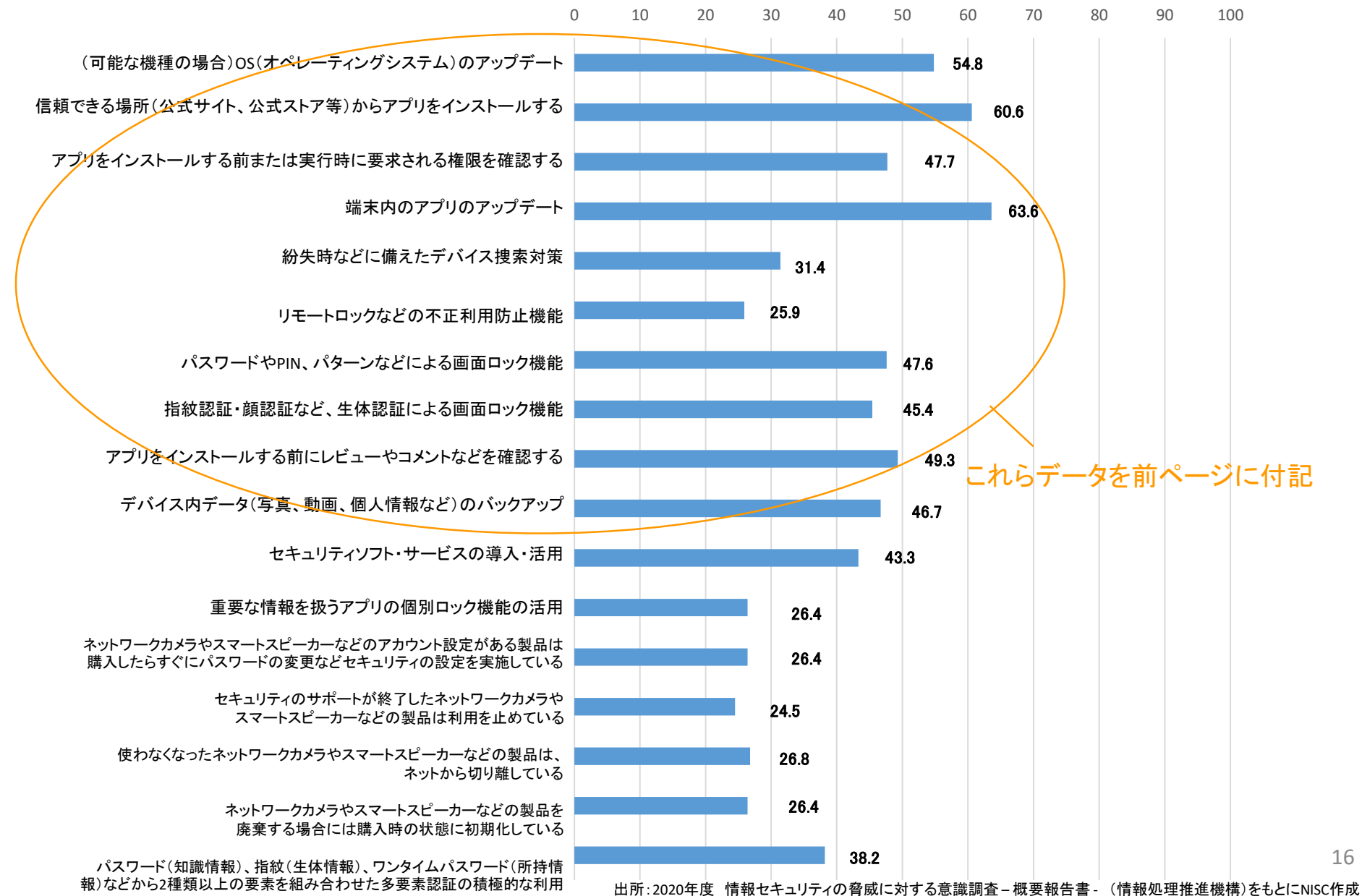
対策状況

2020年度まで含めると向上も見受けられるが、
設問が異なることに起因する可能性もあり



⑤ スマートデバイスのセキュリティ対策の実施状況(3／3)

問 私物のスマホのセキュリティ対策について、実施状況としてあてはまるものを選択してください。



出所：2020年度 情報セキュリティの脅威に対する意識調査－概要報告書－（情報処理推進機構）をもとにNISC作成
※ 2020年度の設問は、セキュリティ対策1つ1つについて、実施の有無、有の場合いつからかを選択する形式。
2020年度の集計については、それぞれの対策について「1年以上前から実施している」と「1年以内に実施し始めた」の合計の数値を計算した。

⑥ インターネットや情報に関する倫理教育の受講経験(1/2)

2019年度追記
2020年度関連データ付記(参考)

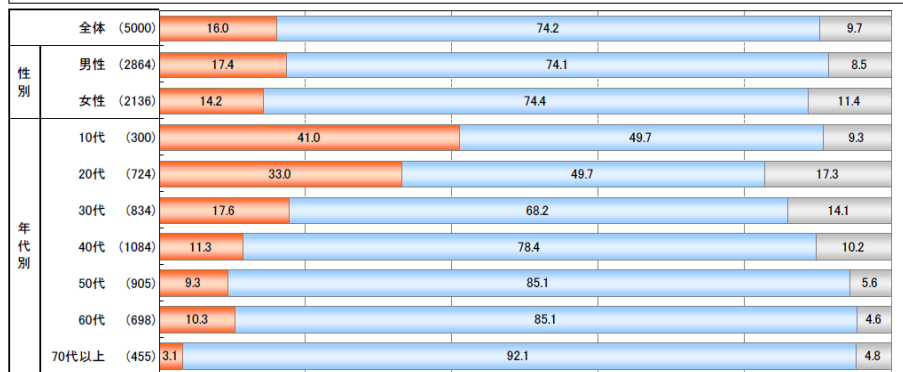
対策状況

【Q1】 これまでにインターネットや情報に関する倫理教育を受けたことがありますか。あてはまるものを選択してください。(お答えは1つ)

2020年度

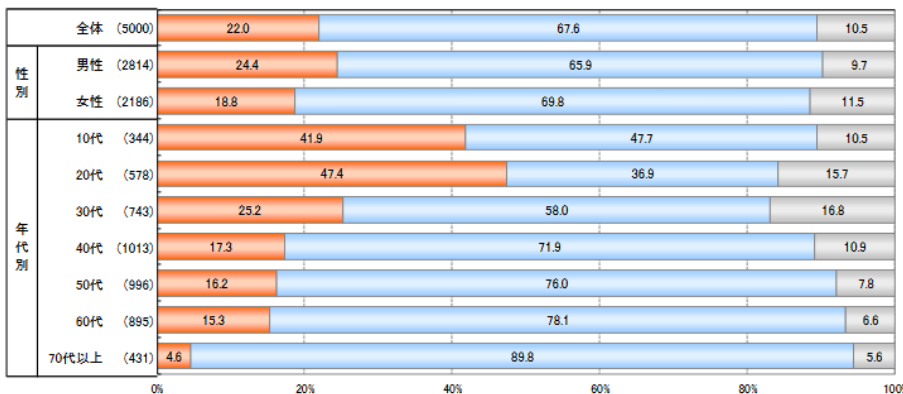


2019年度

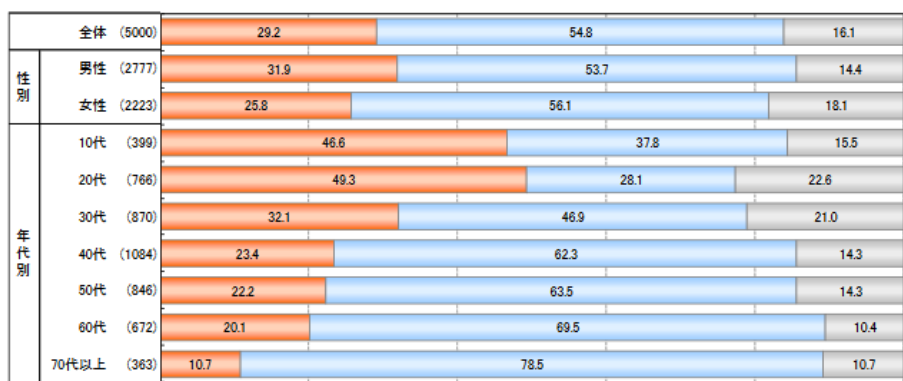


10代、20代の
受講経験が多い

2018年度



2017年度



⑥ インターネットや情報に関する倫理教育の受講経験(2/2) 2020年度関連データ

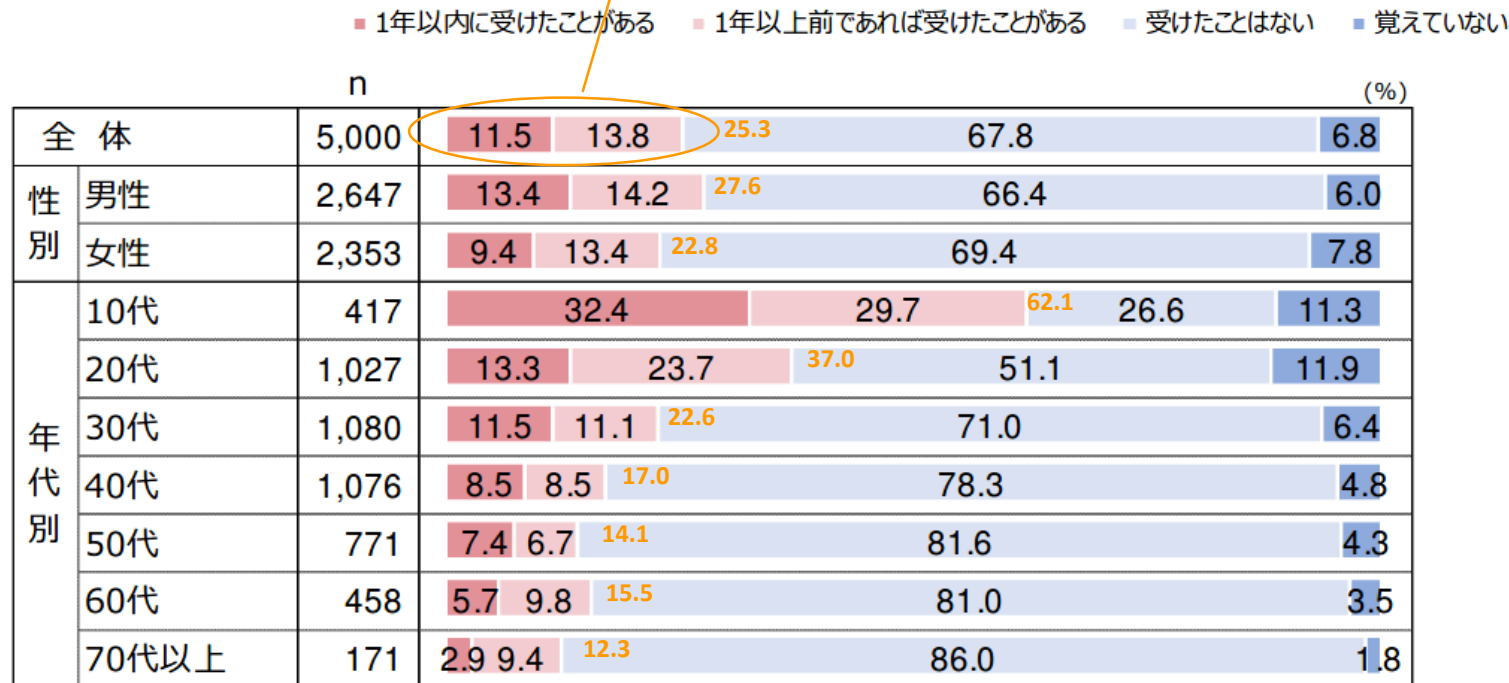
対策状況

※設問が多少変わっており2019年度以前との単純な比較には留意が必要。

Q1. インターネットや情報に関する倫理教育(SNS投稿やインターネット利用時に留意すべきこと)を受けたことがありますか。あてはまるものを選択してください。(1つ選択)

このデータを前ページに付記

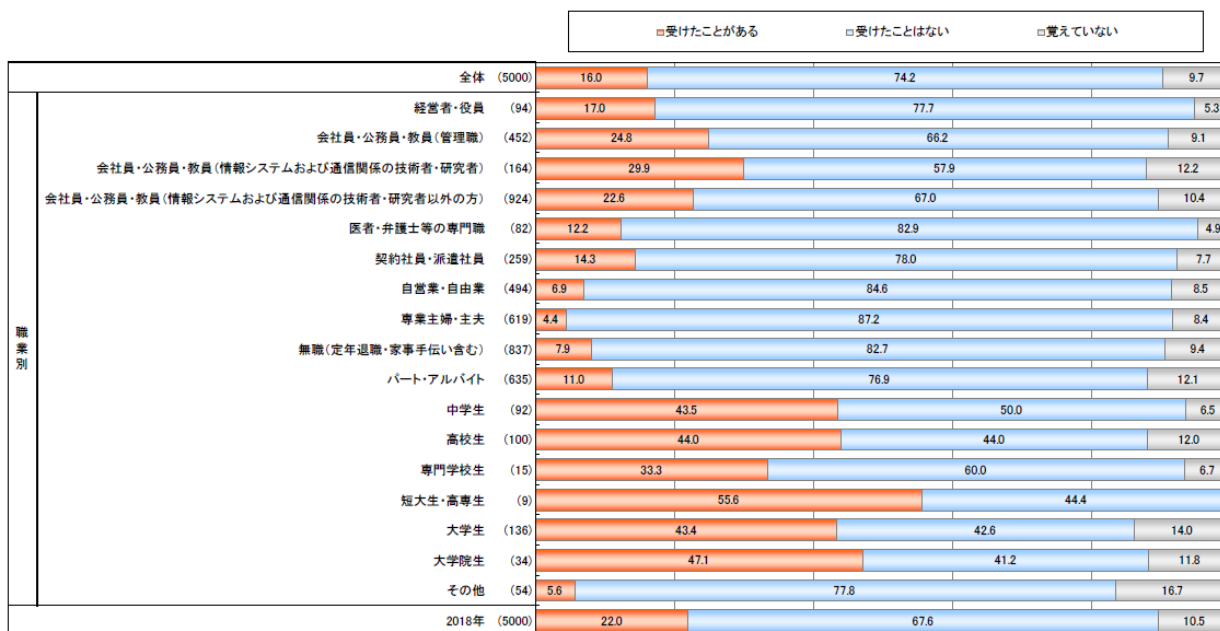
付記したデータは「1年以内に受けたことがある」と「1年以上前であれば受けたことがある」の合計



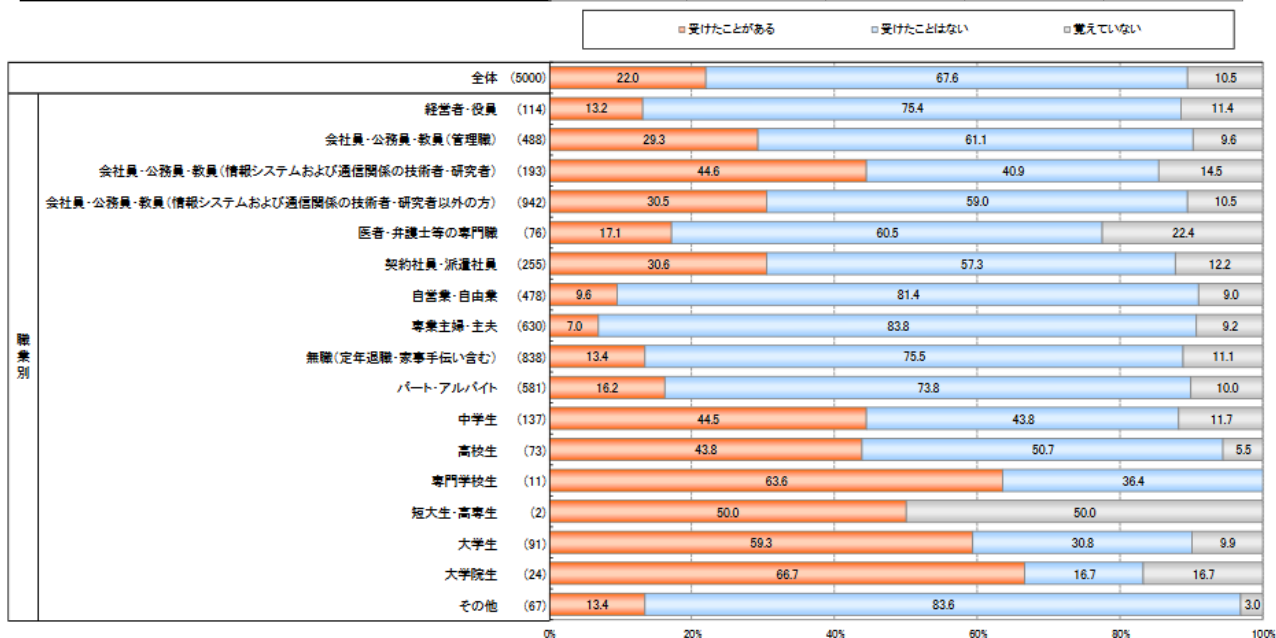
⑥ インターネットや情報に関する倫理教育の受講経験(1/2) 2019年度追記

対策状況

2019年度



2018年度



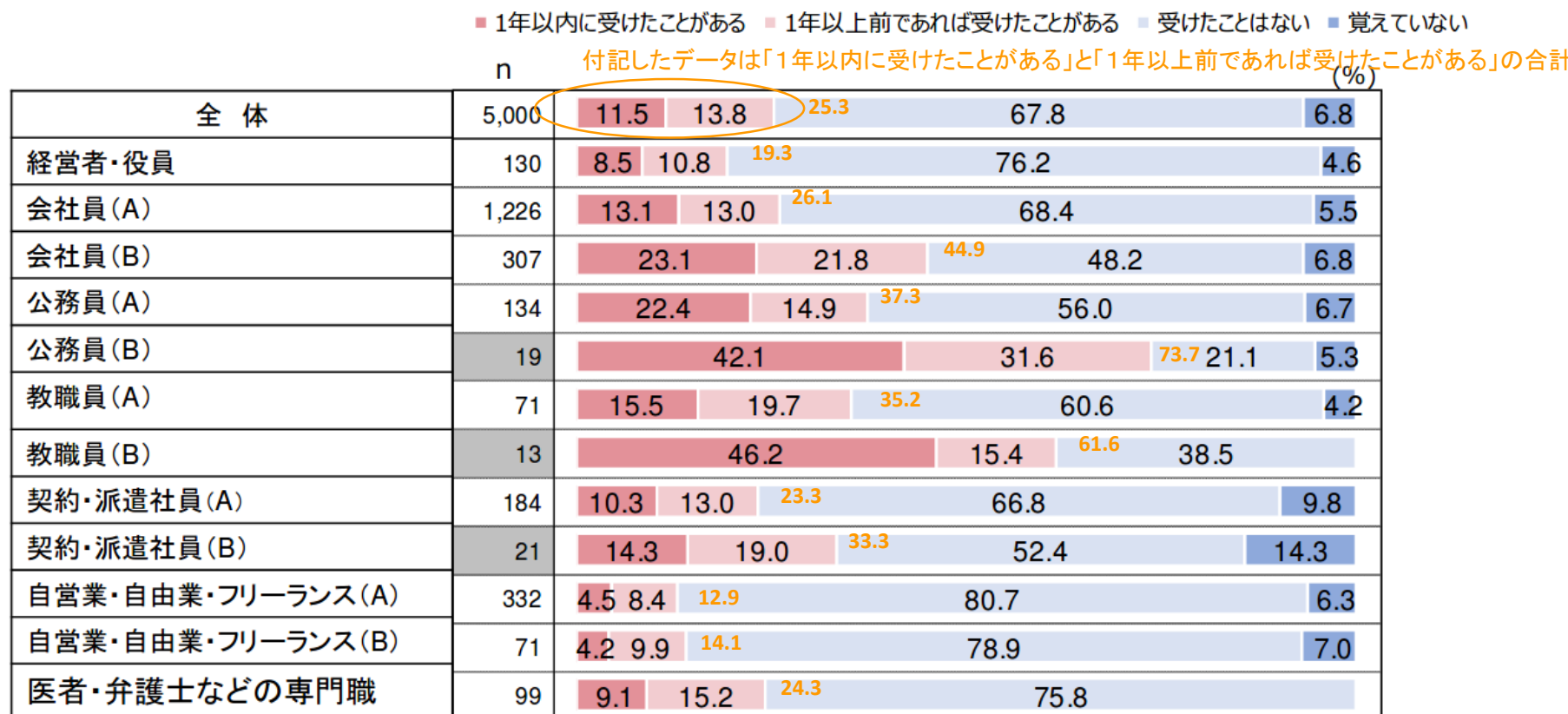
2019年度、2018年度 情報セキュリティの倫理に対する意識調査 - 調査報告書 - (情報処理推進機構)
上記はパソコンでのインターネット利用者を対象とした調査

※今年度から全面改訂

⑥ インターネットや情報に関する倫理教育の受講経験(2/2) 2020年度関連データ

対策状況

※設問が多少変わっており2019年度以前との単純な比較には留意が必要。



A: 情報システム・通信関係以外の業務
B: 情報システム・通信関係の業務

職業別は一部抜粋
全属性は「職業別_倫理調査を参照」

12

⑦ 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に関する調査結果(ILAS) 2019年度追記
(2020年度は今後予定)

- 全体の正答率（68.7%）は、過去4年間の平均（68.8%）とほぼ同等である。
- 項目別に4年前と比較すると、「3b. セキュリティリスク」の正答率が相対的に上昇している一方で、「2c. 不適切利用リスク」「1b. 有害情報リスク」の正答率が相対的に下降している。
- | | | |
|----------------------------------|-----------------------------|----------------|
| 3b. セキュリティリスク（ID・パスワード、ウイルス対策等） | 65.3%（2015年度）→66.8%（2019年度） | となっており、1.5%上昇。 |
| 2c. 不適切利用リスク（過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等） | 82.4%（2015年度）→78.9%（2019年度） | となっており、3.5%下降。 |
| 1b. 有害情報リスク（不適切投稿、炎上、閲覧制限等） | 68.2%（2015年度）→66.0%（2019年度） | となっており、2.2%下降。 |

リスク分類	具体例	2015年度 (n=13,647)	2016年度 (n=14,812)	2017年度 (n=17,223)	2018年度 (n=12,626)	(参考) 過去4年平均	2019年度 (n=7,252)
全体		69.7%	67.2%	68.8%	69.6%	68.8%	68.7%
1 違法有害情報リスク		70.5%	68.9%	70.3%	70.5%	70.0%	69.7%
1a. 違法情報リスク	著作権、肖像権、 出会い系サイト等	72.9%	71.8%	73.8%	73.6%	73.0%	73.4%
1b. 有害情報リスク	不適切投稿、炎上、 閲覧制限等	68.2%	65.9%	66.8%	67.4%	67.0%	66.0%
2 不適正利用リスク		72.6%	69.3%	70.9%	71.6%	71.0%	70.9%
2a. 不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メール、 SNSいじめ等	78.3%	75.8%	77.0%	77.1%	77.0%	76.6%
2b. 不適正取引リスク	フィッシング、 ネット上の売買等	57.1%	54.6%	56.4%	57.5%	56.3%	57.3%
2c. 不適切利用リスク	過大消費、依存、 歩きスマホ、マナー等	82.4%	77.5%	79.4%	80.2%	79.8%	78.9%
3 プライバシー・セキュリティリスク		64.6%	62.6%	63.9%	65.6%	64.1%	64.4%
3a. プライバシーリスク	プライバシー、 個人情報の流出等	63.9%	60.8%	62.3%	63.9%	62.6%	62.0%
3b. セキュリティリスク	ID・パスワード、 ウイルス対策等	65.3%	64.3%	65.6%	67.4%	65.6%	66.8%

○ テスト及びアンケート調査の実施概要

2020年1月から2月にかけて、全国57の公立・私立の高等学校において、7,252名の1年生を対象にIDを割り付けた上で無記名形式でテストを実施。併せて、利用している機器やトラブル経験の有無等についてアンケートを行い、クロス集計を実施。

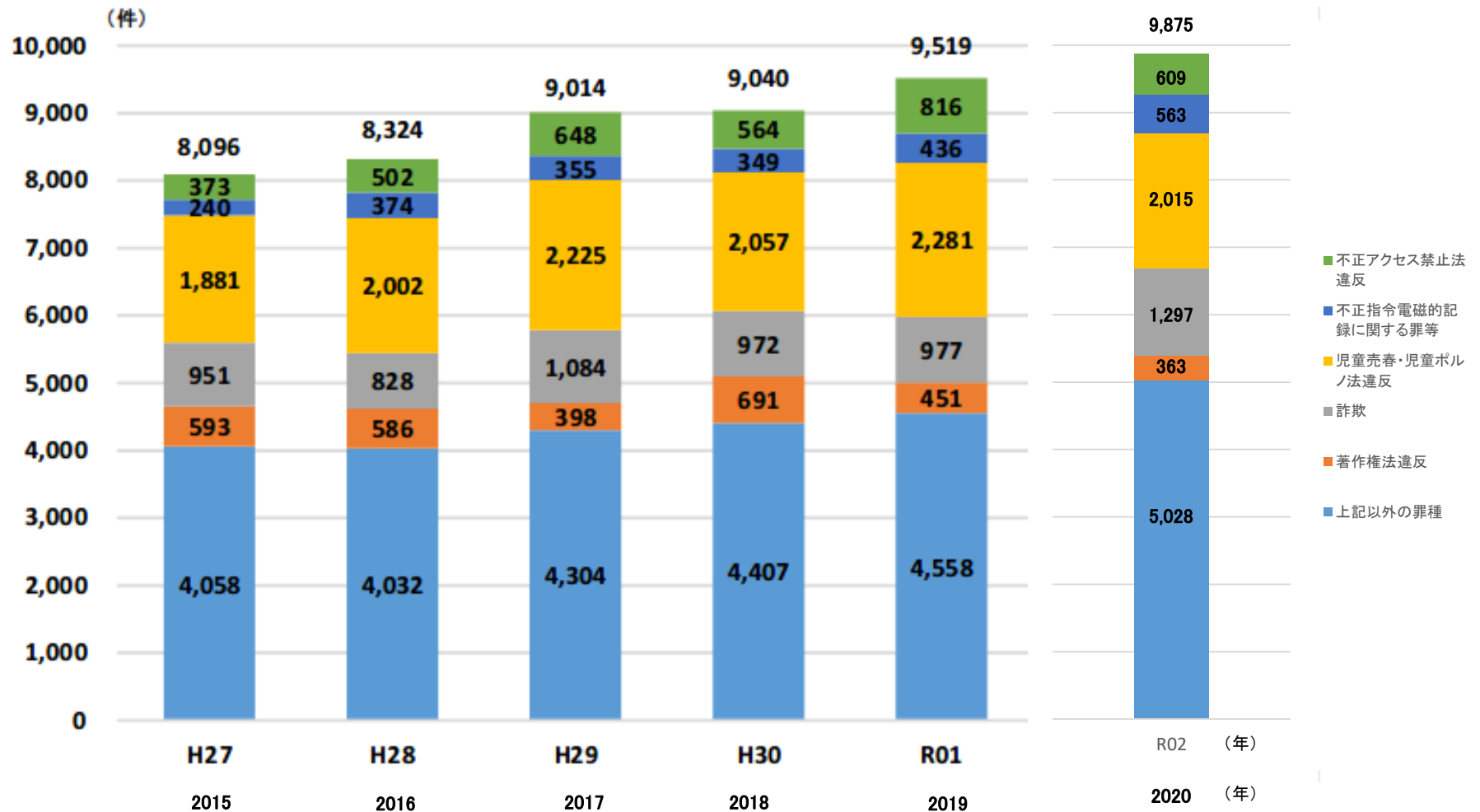
所在地区分	設立区分	協力人数	平均点
特別区等 5校 中核市 10校 その他 42校	国立・国立高専 1校 公立 50校 私立 6校	男性 3570人 女性 3672人 性別無回答 10人	男性 32.4点 女性 34.9点
計 57校		合計 7252人	全体 33.7点（49点満点）

100%換算で68.7%
(次ページ以降、100%換算で示す)

⑧ サイバー犯罪の検挙件数

2019年、2020年追記

被害

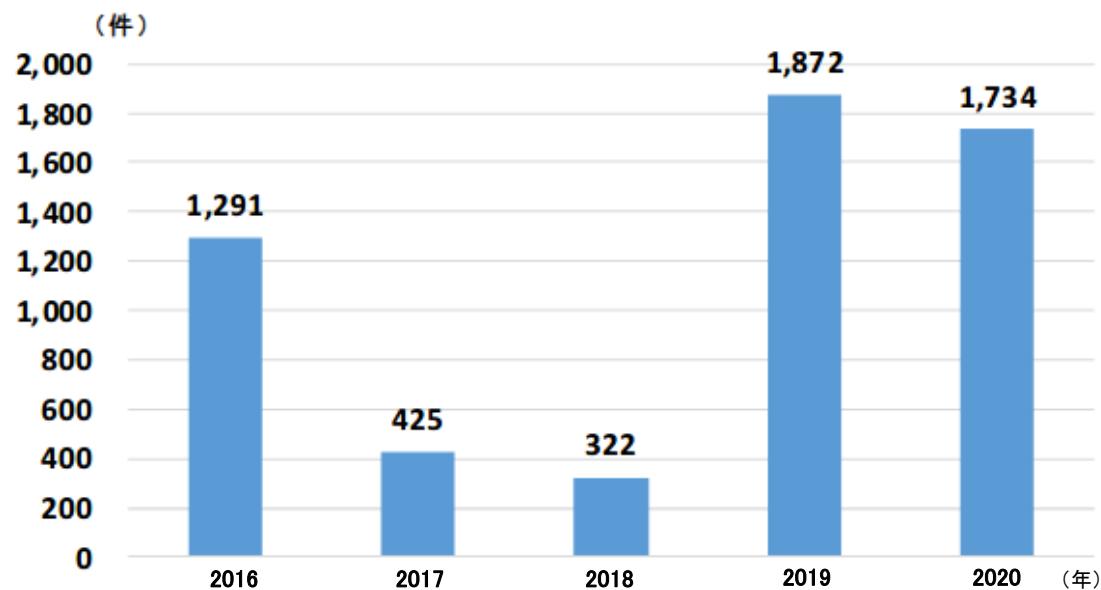


出所: 令和2年におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について(警察庁)
令和元年におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について(警察庁)をもとにNISC作成

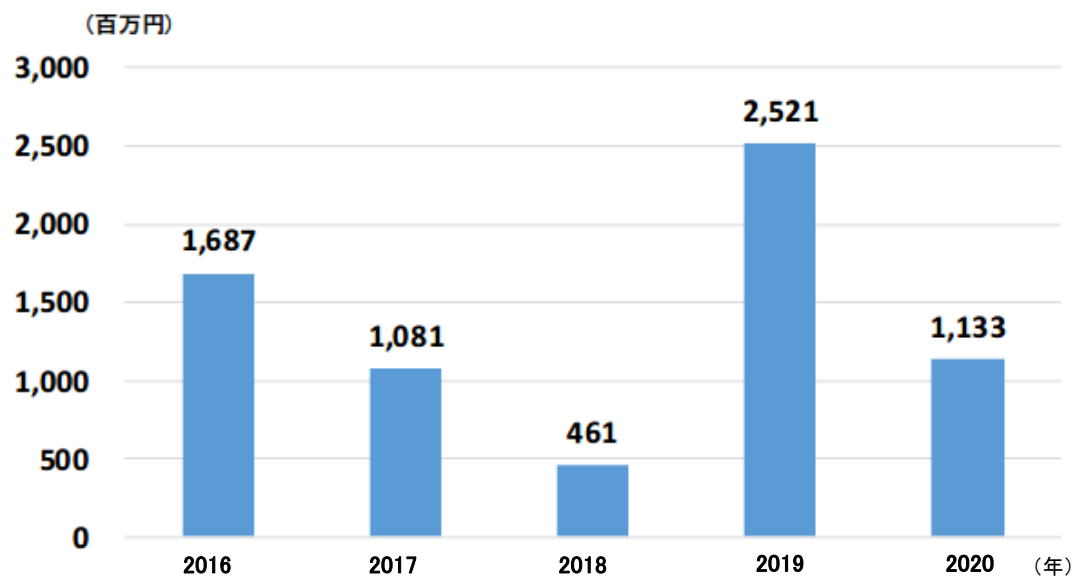
⑨ インターネットバンキングにおける不正送金被害 2019年、2020年追記

被害

発生件数

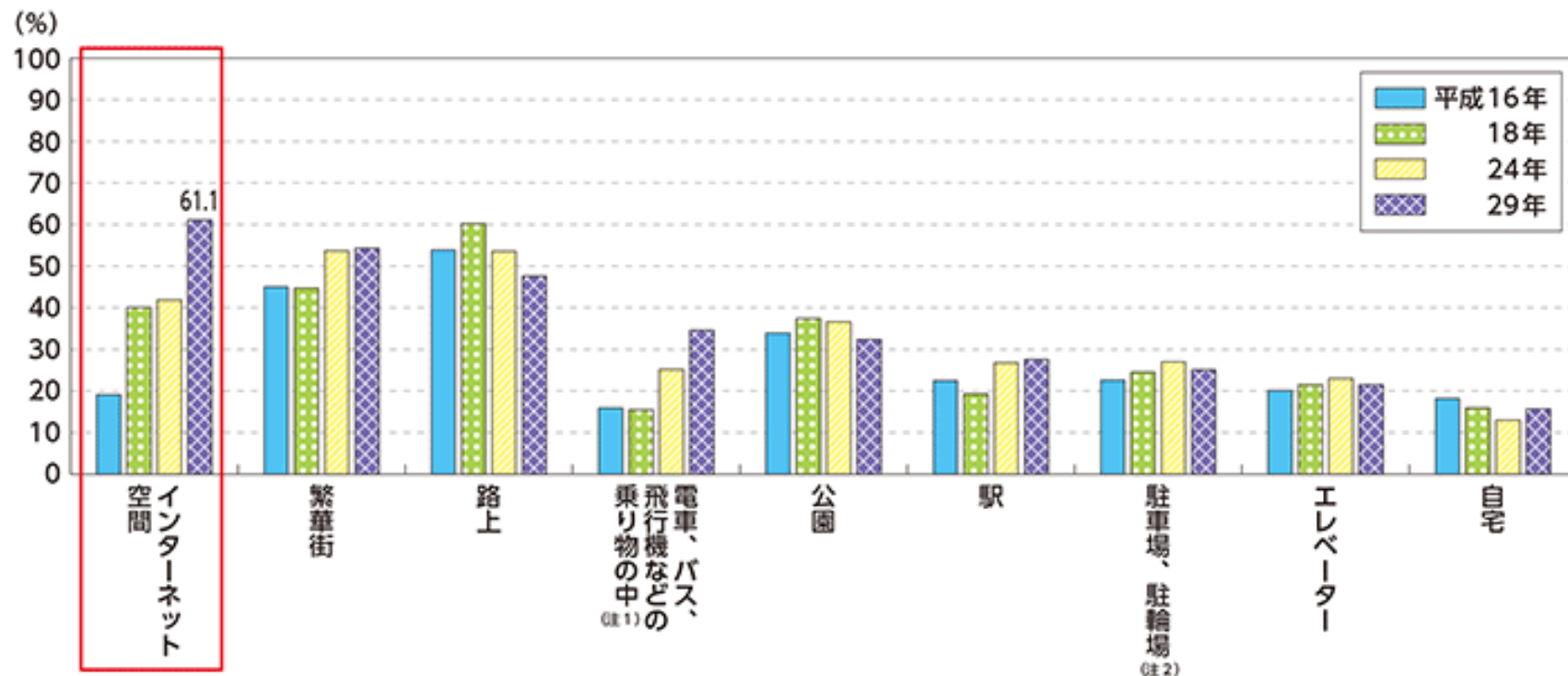


被害額



2004年
2006年
2012年
2017年

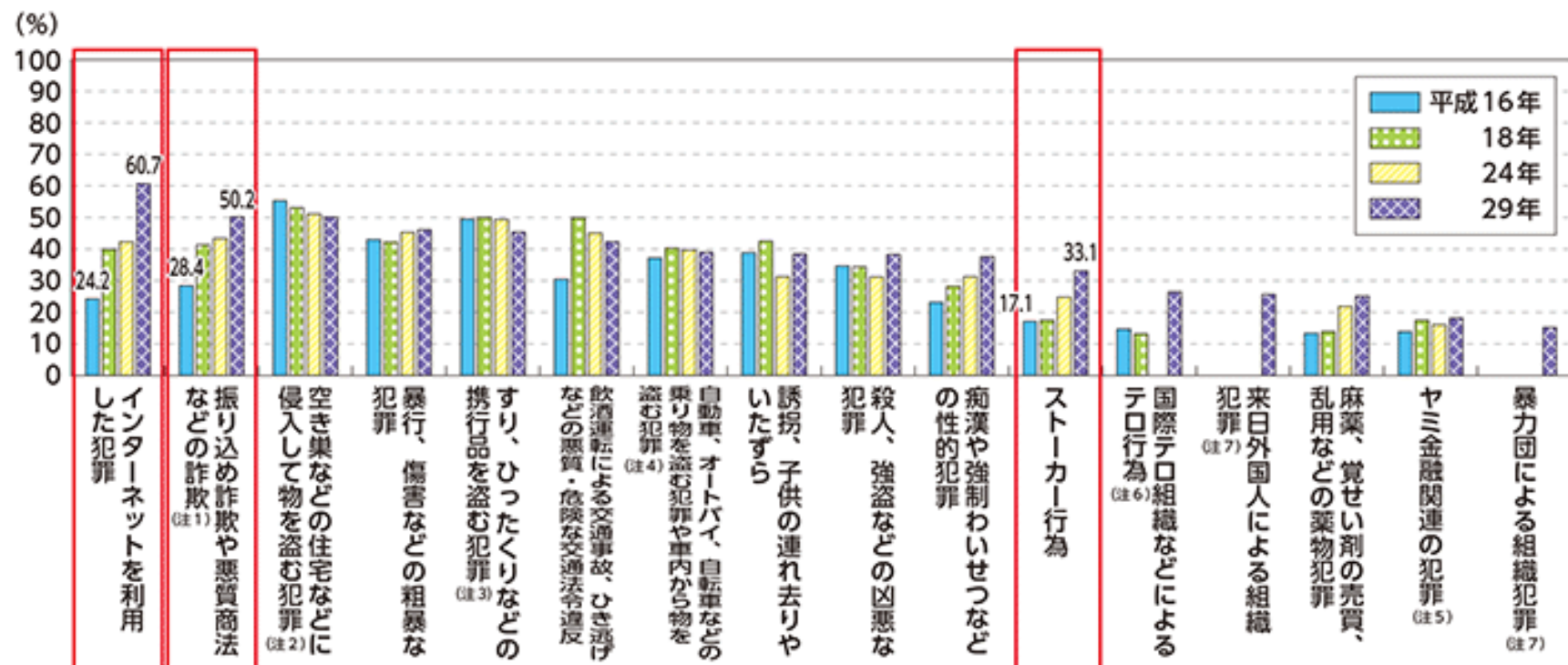
問：あなたが、自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと不安になる場所はどこですか。(複数回答)



注1：16年の調査及び18年の調査では、「電車や飛行機などの乗り物の中」となっている。

注2：16年の調査及び18年の調査では、「駐車場」となっている。

問：あなたが、自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと不安になる犯罪は何ですか。（複数回答）



注1：16年の調査では、「いわゆる『オレオレ詐欺』や悪質商法などの詐欺」となっている。

注2：16年の調査及び18年の調査では、「自宅に入る空き巣などの犯罪」となっている。

注3：16年の調査及び18年の調査では、「すり、ひったくりなどの犯罪」となっている。

注4：16年の調査及び18年の調査では、「自動車、オートバイなどの乗り物盗や車内の物を盗む車上ねらい」となっている。

注5：16年の調査及び18年の調査では、「ヤミ金融事犯」となっている。

注6：24年の調査では、選択肢にない。

注7：16年の調査、18年の調査及び24年の調査では、選択肢にない。

出所：2018年度 警察白書

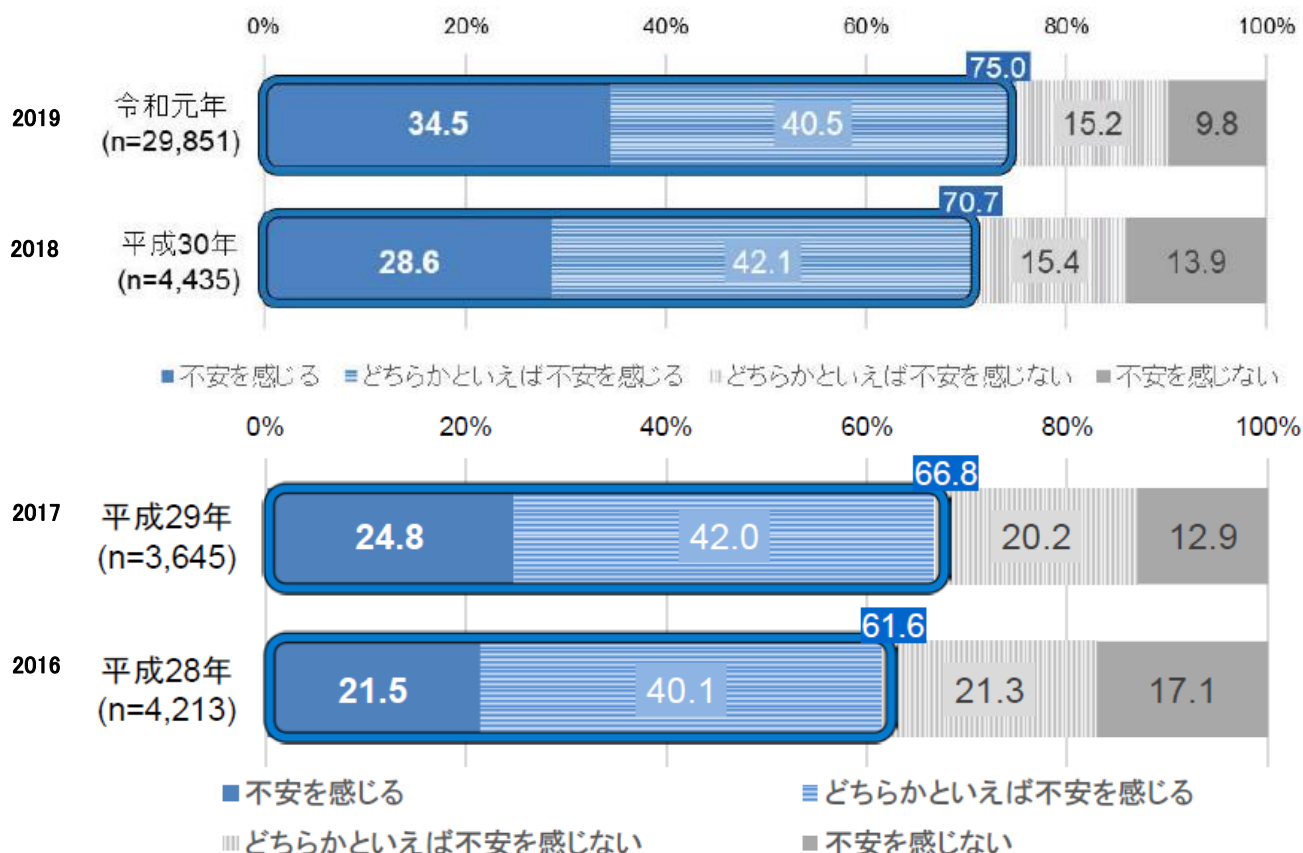
⑪ インターネット利用に関連するトラブルへの不安感

データ更新なし

／別データを用いて別途作成

不安感

(1) あなたはインターネットを利用して、セキュリティなどに不安を感じますか。



出所: 通信利用動向調査

令和元年度調査、平成30年度調査、平成29年度調査(総務省)

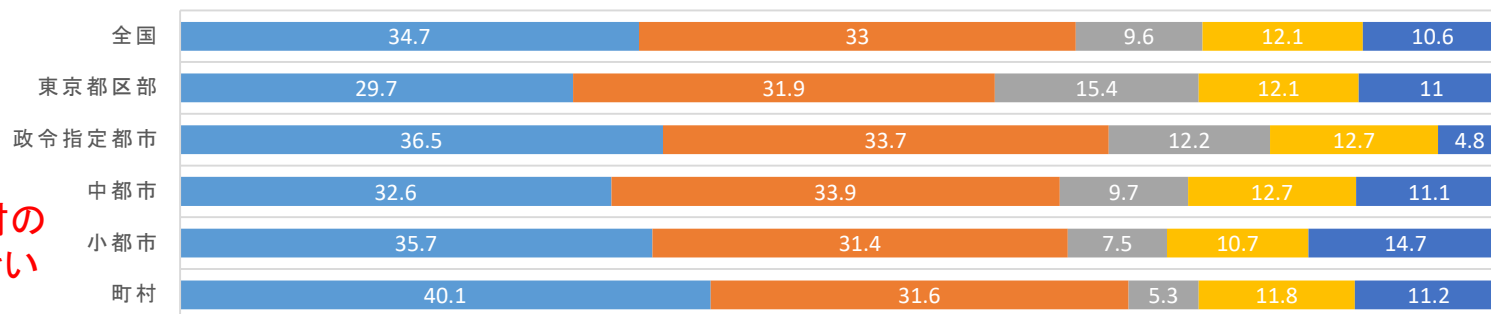
⑫ インターネット利用に関連するトラブルへの不安感(地域別) データ更新なし

不安感

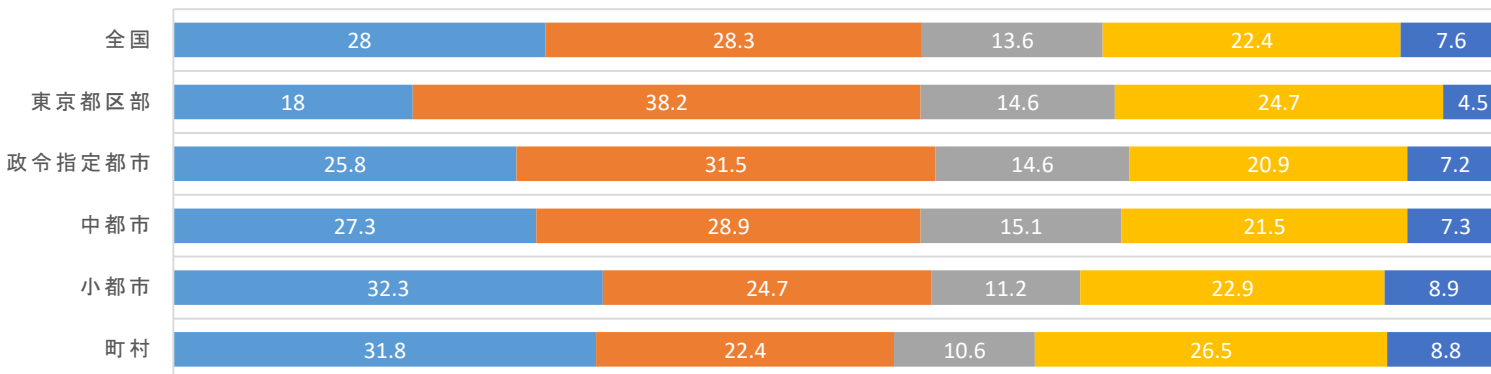
■ 不安がある ■ どちらかといえば不安がある ■ どちらかといえば不安はない ■ 不安はない ■ わからない

2018年調査

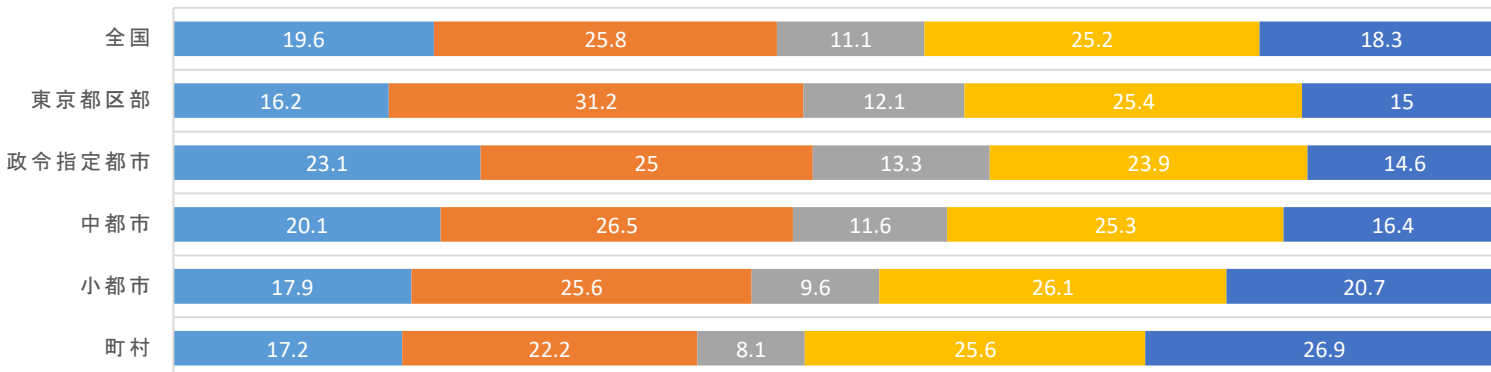
中都市～町村の
不安感大きい



2015年調査



2007年調査



出所: インターネットの安全・安心に関する世論調査(内閣府)のデータを基に事務局作成

全般的な傾向

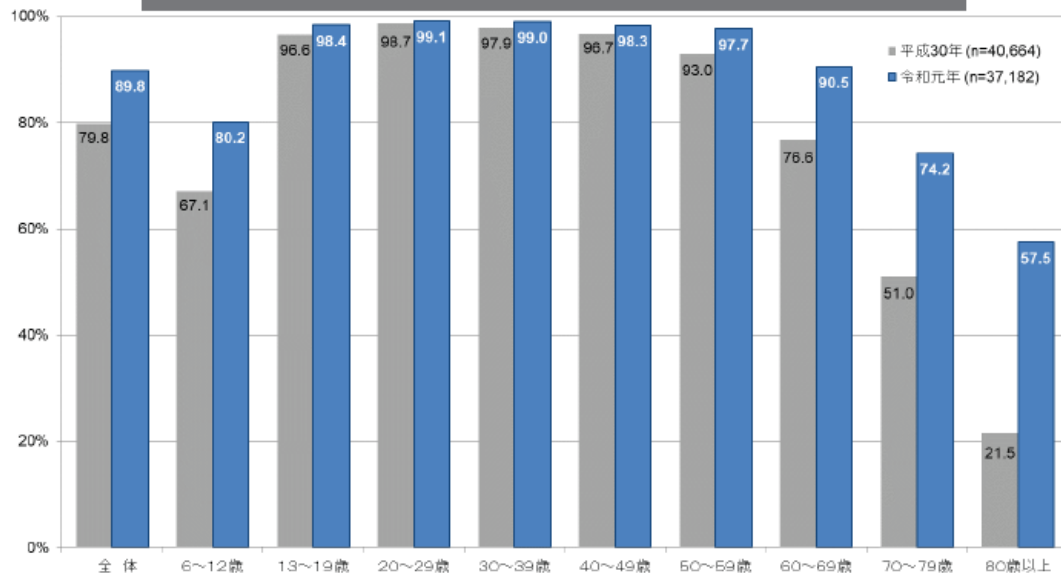
- 脅威の認知度、対策状況ともに、向上が見受けられる項目もある。

認知度	対策状況
- セキュリティホール（脆弱性） - ランサムウェア - フィッシング詐欺	- ログインパスワードの設定 - OSの更新やセキュリティパッチの適用 - セキュリティソフト・サービスを導入・活用する - ブラウザのセキュリティ設定を高くする - 意図しないアプリ・ファイルのダウンロードはしない - メールの添付ファイルは不用意に開かない - 怪しいサイトにアクセスしない - アドレスバーのURLをチェックする

- サイバー犯罪の検挙件数、不安感は増大している。

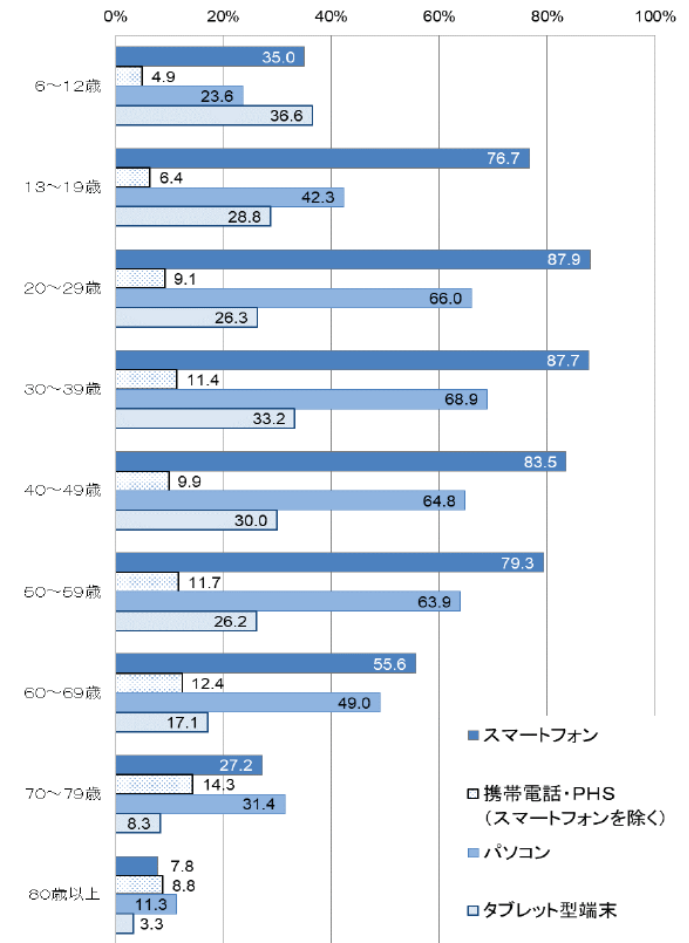
(参考1) インターネット利用状況

インターネット利用状況（個人）



高齢者における利用が大きく増加している

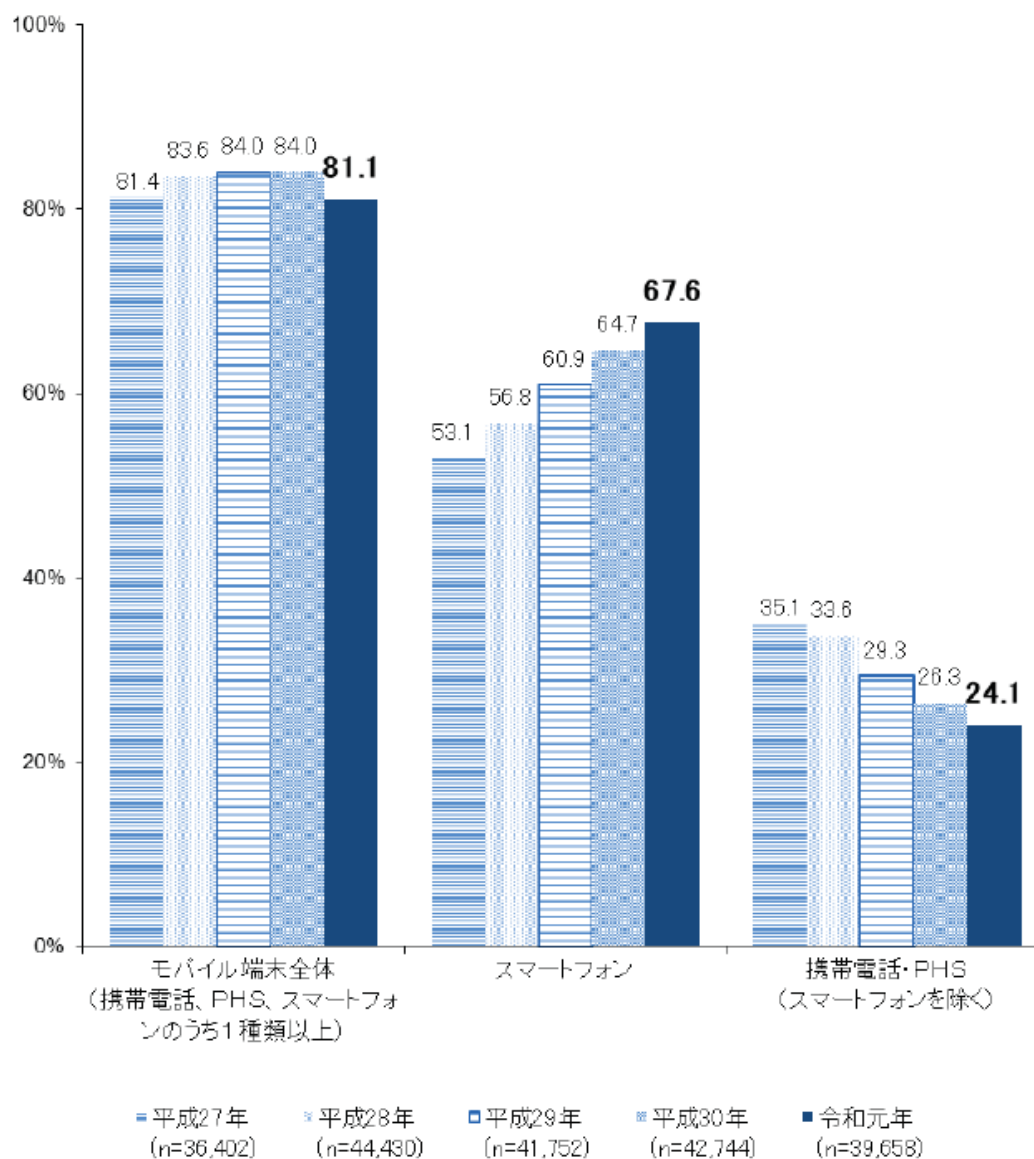
年齢階層別インターネット利用機器の状況（個人）



高齢者はパソコンでの利用が多い傾向にある

(注) 主な利用機器のみ記載

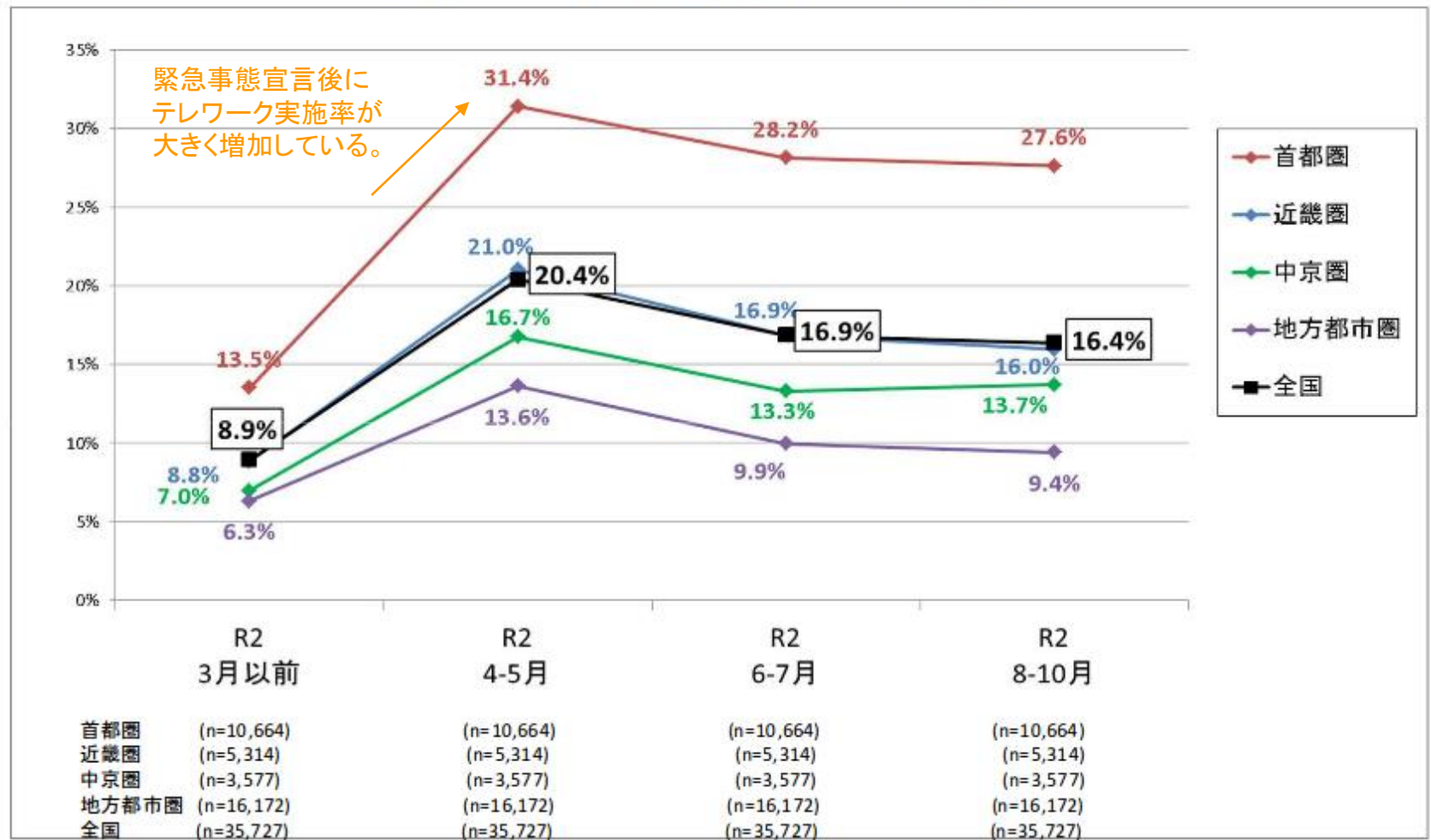
(参考2) モバイル端末の保有状況の推移



出所:令和元年度 通信利用動向調査(総務省)

(参考3) テレワーク実施率

雇用型就業者に占める時期別のテレワーク実施割合

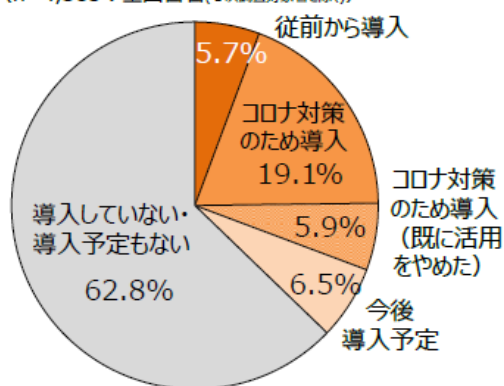


テレワークセキュリティに関する2次実態調査結果①

- 新型コロナ対応のため、中小企業を含めてテレワークが急速に拡大。(緊急事態宣言＝2020年4月)
- 緊急事態宣言解除後も、規模は縮小しつつも引き続きテレワークを実施している企業が多い。

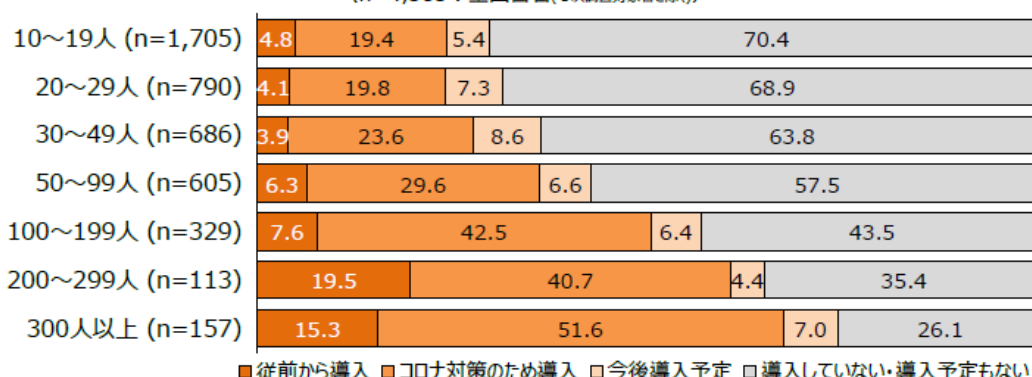
テレワークの導入状況

(n=4,385：全回答者(1次調査対象者を除く))



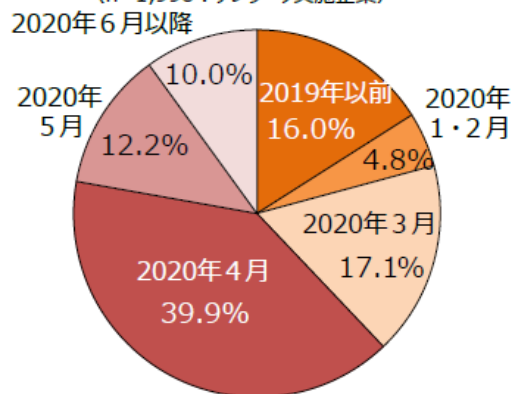
テレワークの導入状況(従業員規模別)

(n=4,385：全回答者(1次調査対象者を除く))



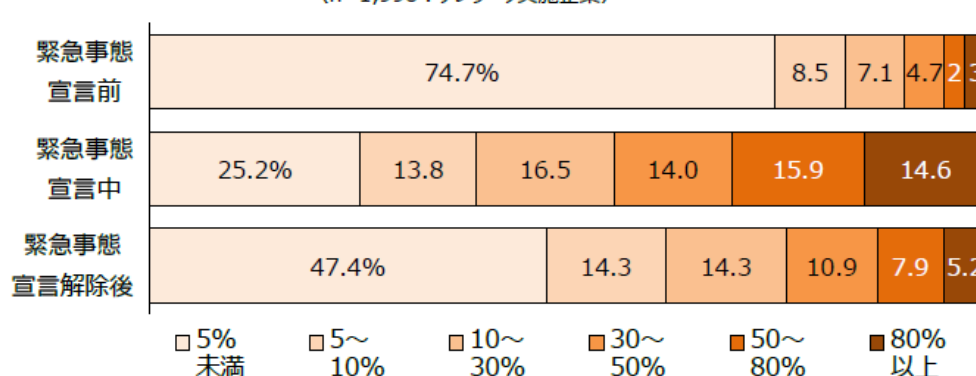
テレワークの導入時期

(n=1,996：テレワーク実施企業)



(各企業における) テレワークの導入割合

(n=1,996：テレワーク実施企業)

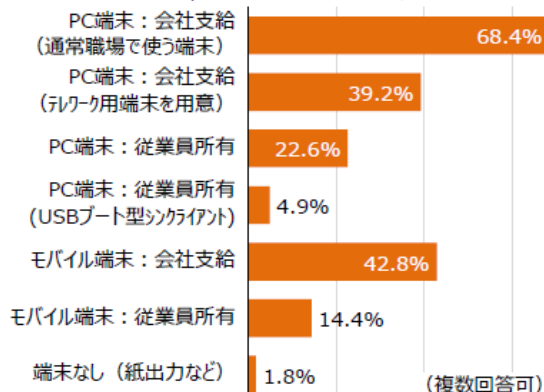


テレワークセキュリティに関する2次実態調査結果②

- テレワークでは会社支給端末や、クラウドサービスが広く利用されている。
- テレワークの導入に当たって、「セキュリティの確保」が最大の課題となっている。

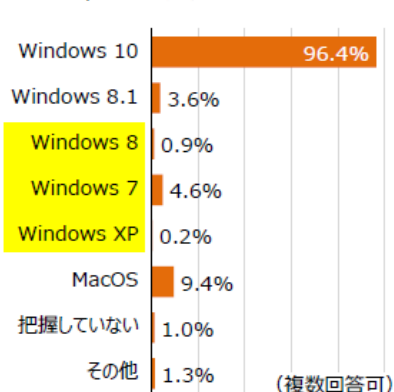
テレワーク利用を許可している端末

(n=1,996：テレワーク実施企業)



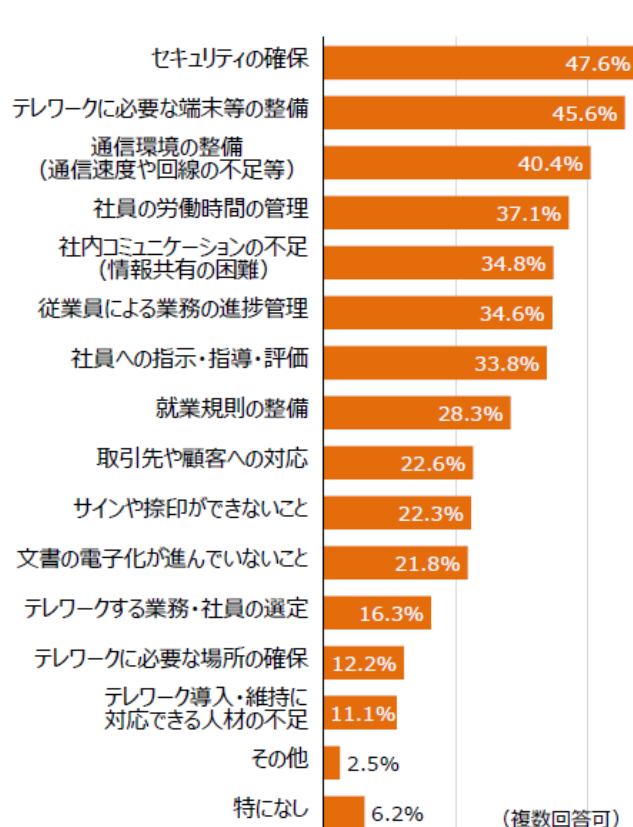
会社支給PC端末のOS

(n=1,735：会社支給PC端末を利用)



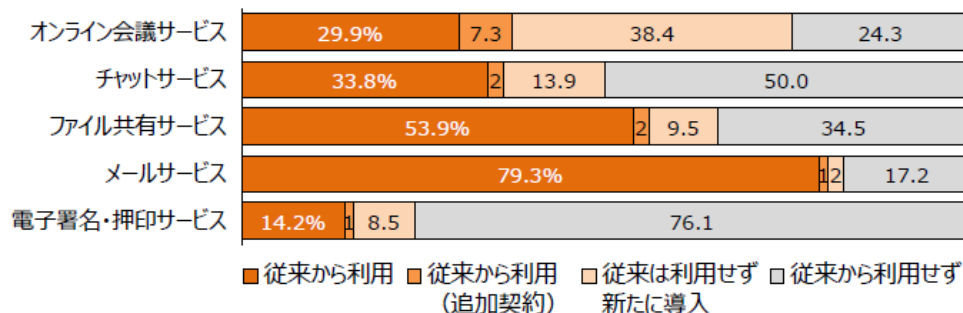
テレワークの導入に当たり課題となった点

(n=1,996：テレワーク実施企業)



クラウドサービスの利用状況

(n=1,996：テレワーク実施企業)



(備考)

情報セキュリティの脅威に対する意識調査(情報処理推進機構(IPA))にかかる毎年の調査の方法(2019年までと2020年の違い)

	2017年	2018年	2019年	2020年
n数	パソコン：5,000 スマートデバイス：5,000	パソコン：5,000 スマートデバイス：5,000	パソコン：5,000 スマートデバイス：5,000	パソコン：5,000 スマートデバイス：5,000
抽出方法	全国13歳以上の、①パソコンでのインターネット利用者ならびに②スマートデバイス(スマートフォンまたはタブレット端末)でのインターネット利用者。それぞれの利用者の性別・年代別構成をもとに割り付けて回収 ※事前調査で、「インターネットはパソコンのみで行う」または「インターネットの利用時間がスマートデバイスよりパソコンのほうが長い」を①、「インターネットはスマートデバイスのみで行う」または「インターネットの利用時間がパソコンよりスマートデバイスのほうが長い」を②に振り分け	全国13歳以上の、①パソコンでのインターネット利用者ならびに②スマートデバイス(スマートフォンまたはタブレット端末)でのインターネット利用者。それぞれの利用者の性別・年代別構成をもとに割り付けて回収 ※事前調査で、「インターネットはパソコンのみで行う」または「インターネットの利用時間がスマートデバイスよりパソコンのほうが長い」を①、「インターネットはスマートデバイスのみで行う」または「インターネットの利用時間がパソコンよりスマートデバイスのほうが長い」を②に振り分け	全国13歳以上の、①パソコンでのインターネット利用者ならびに②スマートデバイス(スマートフォンまたはタブレット端末)でのインターネット利用者。それぞれの利用者の性別・年代別構成をもとに割り付けて回収 ※事前調査で、「インターネットはパソコンのみで行う」または「インターネットの利用時間がスマートデバイスよりパソコンのほうが長い」を①、「インターネットはスマートデバイスのみで行う」または「インターネットの利用時間がパソコンよりスマートデバイスのほうが長い」を②に振り分け	総務省「令和元年通信利用動向調査」を基に、全国13歳以上のパソコン利用者およびスマートデバイス利用者でそれぞれ調査を実施。性別・年代別割合でアンケート回収数を算出 ※事前調査で、「インターネットの利用時間がスマートデバイスよりパソコンのほうが長い」を①、「インターネットの利用時間がパソコンよりスマートデバイスのほうが長い」を②に振り分け
抽出結果 デモグラフィ				
設問内容	設問内容は同じ			設問内容が異なる
調査時期	2017年9月28日～10月4日 ※6日間 実施者：楽天リサーチ(株)	2018年9月20日(木)～10月1日(月) ※12日間 実施者：楽天インサイト(株)	2019年12月6日(金)～12月17日(火) ※12日間 実施者：(株)ネオマーケティング	2020年12月9日(水)～12月14日(月) ※6日間 実施者：(株)アスマーク

※ 黄色網掛け部分は過年と異なるものを表す
※ 各年度の報告書から作成